

(1) 都市計画マスタープランの見直し(全体構想の検討)について

1. 本市の現況まとめ

「広域的な位置付け」及び「都市構造の特性と動向」から、本市の現況を整理します。

※ゴシック体(太字)の項目については、第1回検討委員会で示した現況分析データ等を基にまとめた項目

項目	現況
広域的な位置付け	
位置	・富山県の東部に位置し、北西部は富山湾、南東部は北アルプスが広がる。
広域交通	・三大都市圏から同程度の距離圏に位置し、鉄道と高規格幹線道路により連絡されている。
都市構造の特性と動向	
地形・自然環境	<ul style="list-style-type: none"> ・標高3,000m級の北アルプスや黒部峡谷、黒部川による肥沃な扇状地など、雄大な地形を織りなしている。 ・富山湾や黒部川などの海岸と河川に恵まれ、扇状地先端部では、清冽な湧水群を有している。
人口・世帯数	<ul style="list-style-type: none"> ・人口は、2000年(平成12年)以降、減少傾向を示す一方、世帯数は年々増加傾向にあり、核家族化が進んでいる。 ・年齢3区分別では、年少人口は減少する一方で、老年人口は増加しており、少子高齢化が進行している。 ・人口密度の増減率では、減少しているエリアが多く見られるものの、交通利便性の高い幹線道路の近接地や鉄道駅周辺などに、増加しているエリアも点在している。 ・高齢人口密度増減率では、全体的に増加傾向を示しており、特に用途地域内及び周辺部の増加が顕著である。 ・石田地区の用途地域内の一部においては、人口密度は減少しているものの、高齢人口密度は増加している。 ・就業先別流出人口では、流入が流出を上回っており、新川地域のほか、富山市との関係性が強くなっている。

項目	現況
産業	<ul style="list-style-type: none"> ・産業大分類別人口比率は、全国や富山県と比べ、第2次産業の割合が高く、第3次産業の割合が低くなっている。 ・農業では、農業経営体数、農業経営体の耕地面積ともに、減少傾向を示している。 ・工業の事業所数は、増加傾向であり、従業者数は、2014年(平成30年)まで増加傾向を示していたものの、2019年(令和元年)以降は、減少傾向となっている。製造品出荷額等は、2014年(平成30年)をピークに、その後は減少傾向だったものの、2021年(令和3年)に増加に転じている。 ・商業では、商店数、従業者数ともに、減少傾向を示している。
生活・公共施設	<ul style="list-style-type: none"> ・教育、行政・文化、生涯学習、スポーツ等の公共・公益施設が市内に整備されている。
観光・交流	<ul style="list-style-type: none"> ・市内には、黒部峡谷や宇奈月温泉、海岸部の湧水群やレジャー施設、丘陵地のレクリエーション施設があるほか、道の駅KOKOくろべなど、新たな観光施設も誕生している。 ・2020年度(令和2年度)以降の主要観光地入込客数は、約130万人まで減少していたが、道の駅KOKOくろべの開業などにより、回復傾向にある。
交通	<ul style="list-style-type: none"> ・北陸自動車道、国道8号、北陸新幹線、あいの風とやま鉄道などの広域交通が南北方向に縦断し、それらと直行して富山地方鉄道や(主)黒部宇奈月線などが東西方向に横断している。 ・2015年(平成27年)の黒部宇奈月温泉駅の開業にあわせ、同駅に近接して、富山地方鉄道新黒部駅が整備されている。 ・国道8号入善黒部バイパス(黒部市古御堂～魚津市江口)が2015年(平成27年)に供用を開始している。 ・富山地方鉄道や路線バスなどの利用者数は、北陸新幹線開業等を機に一時的に増加し、その後は減少傾向を示し、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少したが、現在は回復傾向にある。 ・あいの風とやま鉄道の利用者数は、北陸新幹線開業に合わせ、一時的に減少し、その後は、回復傾向を示していたものの、新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少したが、現在は回復傾向にある。

項目	現況
都市構造の特性と動向	
土地利用	<ul style="list-style-type: none"> ・都市計画区域内の土地利用では、山林が約4割を占め、最も多くなっている。 ・商業地は、三日市、生地、石田、宇奈月地区などに集積している。 ・工業地は、あいの風とやま鉄道の黒部駅周辺や生地駅東部のほか、黒部IC周辺に大規模な工場が立地している。 ・住宅地は、三日市、生地、石田地区などに集積しているほか、富山地方鉄道と並行する幹線道路沿道に既存集落地などが形成されている。 ・扇状地に広がる農用地（用途地域外）において、宅地開発等が進行している。 ・空き家については、用途地域内や富山地方鉄道沿線に多く分布しており、三日市、石田及び生地地区の一部で集積率の高いエリアが存在している。 ・空き地については、用途地域外の平野部や富山地方鉄道沿線などに広く分布しており、用途地域周辺部で集積率の高いエリアが存在している。 ・黒部市立地適正化計画の届出件数・戸数では、2022年度（令和4年度）が11件・231戸と最多。規模では、2021年度（令和3年度）が82.8千㎡と最大となっている。 ・黒部市立地適正化計画の届出による立地状況については、用途地域周辺部や富山地方鉄道沿線に多く分布。用途地域周辺部では（一）魚津入善線沿線等で規模の大きな開発が行われているほか、郊外部でも規模の大きな開発がある。 ・誘導施設については、用途地域内を中心に分布しているほか、富山地方鉄道沿線にも立地している。また、黒部市立地適正化計画の策定時から都市機能誘導区域内の誘導施設が増加し、中心市街地のにぎわいに寄与している。 ・人口密度の高いエリア（用途地域内）を中心に誘導施設が集積している。 ・建築確認申請については、用途地域内だけでなく、その周辺や地鉄沿線などに広く分布している。 ・農地転用については、用途地域内だけでなく、その周辺や地鉄沿線などに広く分布している。
市街化動向	<ul style="list-style-type: none"> ・三日市、生地、石田及び宇奈月温泉地区に市街地が形成されている。 ・土地区画整理事業の実施により、住宅立地が進むほか、三日市地区の用途地域周辺では、開発許可による住宅地等の開発が見られる。

項目	現況
都市計画	<p>【都市計画区域・用途地域】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本市では、2013年（平成25年）3月に、黒部都市計画区域11,595haが指定されている。 ・用途地域は、三日市、石田、生地及び村椿地区に指定されており、その指定面積の割合は、住居系が約5割、商業系が約1割、工業系が約4割となっている。 ・宇奈月地区では、用途地域は指定されていない。 <p>【都市計画道路】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画道路は、18路線が指定され、整備率（概成済延長を含む）は、約8割となっている。 ・三日市及び石田地区では、未整備区間を残す路線が見られる。 ・宇奈月地区では、都市計画道路は指定されていない。 <p>【その他都市施設】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒部駅前及び黒部宇奈月温泉駅の東側に、駅前広場が設けられている。 ・都市計画公園は、13か所あり、計画決定面積の約9割が開設済となっている。 ・都市計画緑地は、2か所あり、開設済となっている。 ・公共下水道は、計画決定されている面積の約8割が施工済となっている。
分析	<p>【人口密度と住宅用地率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口密度の高い用途地域内では、住宅用地率も高く、関係性が見られる一方で、人口密度の低い（一）魚津入善線沿線（荻生地区）や富山地方鉄道沿線（若栗・浦山・下立地区）での住宅用地率が比較的高い。 <p>【住宅用地率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・用途地域周辺で、住宅用地率が高くなっているエリアが存在している。 <p>【商業建物集積率】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三日市地区の中心市街地及び周辺では、商業建物集積率が高くなっている。 ・商業建物については、三日市地区の富山地方鉄道沿線や宇奈月温泉駅周辺のほか、（一）魚津入善線（田家地区）や（主）魚津生地入善線（生地地区）のバス路線沿いでの集積率が高い。

2. 優先的・重点的に対応すべき事項の整理

本市の現況特性、今後の変化要因、上位・関連計画の方針、今後のまちづくりに必要な視点及び市民の意向を踏まえ、本市のまちづくりに関して優先的・重点的に対応すべき事項を整理します。また、優先的・重点的に対応すべき事項を踏まえて、本市の主要課題を整理します。

(1) 本市の現況特性

●雄大な自然の宝庫

本市は、わが国を代表する3,000m級の山岳・北アルプス、黒部峡谷、黒部川扇状地、富山湾など、地形的にも季節的にも変化に富む自然の宝庫となっています。

●恵まれた道路・交通網

広域連携や地域の連携を担う北陸新幹線、あいの風とやま鉄道、北陸自動車道、国道8号などの公共交通及び幹線道路網が、中心市街地やその近接地を南北に縦断しており、道路・交通に恵まれています。

●扇状地と河岸段丘等で生活・生産活動

黒部川扇状地及び布施川流域沿いの河岸段丘と、扇頂部に当たる愛本地区から宇奈月温泉地区までの中流域の細長い河岸段丘では、市民生活が営まれ、産業活動が発展しています。また、十二貫野台地では、農業などが営まれています。

●主な市街地

主な市街地として、旧北陸街道の下街道と上街道の分岐点として江戸時代に栄え、電鉄黒部駅及び黒部駅周辺に形成された中心市街地である三日市地区があります。また、扇端部に位置し、漁業基地としての歴史を誇る生地地区や石田地区のほか、1924年（大正13年）に黒薨温泉の引湯によって温泉街となった宇奈月温泉地区があります。

●交通網を活かした観光客の受け入れ

北陸新幹線、あいの風とやま鉄道、富山地方鉄道、北陸自動車道、国道8号などの市内の交通ネットワークが相互に連絡し、多くの来訪者が訪れており、市内外の交流が盛んに行われています。

特に温泉や黒部峡谷鉄道を擁する宇奈月温泉地区では、国内のみならず、海外からも多くの観光客が訪れています。また、漁師町の風情が魅力の生地地区においても、名水百選の湧水や産業観光などにより、多くの観光客が訪れています。

(2) 今後の変化要因

時代の潮流（第2次黒部市総合振興計画を踏まえて）	本市を取り巻く主な変化要因
<ul style="list-style-type: none"> ○急激な人口減少・少子化、超高齢社会の到来 ○安全・安心に対する意識の高まり ○地球環境問題の深刻化 ○北陸新幹線の開業 ○グローバル化の進展 ○価値観の多様化 ○次代を担う子供の育成 ○ICT（情報通信技術）の進展 ○地方分権のさらなる広がり 	<ul style="list-style-type: none"> ○北陸新幹線黒部宇奈月温泉駅の開業 ○国道8号入善黒部バイパスの全線開通 ○黒部市役所の移転 ○道の駅KOKOくろべの開業 ○新川地域消防本部の開庁 ○くろべ市民交流センター「あおーよ」の整備 ○市街地の人口密度の低下 ○空き家・空き店舗の発生 ○用途地域周辺等郊外部での開発による人口の拡散

(3) 上位・関連計画の方針

第2次黒部市総合振興計画（後期基本計画）
～大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 黒部～ ○市民の参画と協働によるまちづくり ○みんなでつくろう黒部の未来 ○みんなのチャレンジを応援し、住む人が輝き、人が人を呼び込むまち
黒部都市計画区域マスタープラン
～市民の参画と協働による魅力あるまちづくりとその見える化～ ○交通ネットワークを活かした都市づくり ○地域（山・里・川・海）の特性を活かした都市づくり ○安全で安心して暮らせる都市づくり ○自然と共生し、景観に配慮した都市づくり
黒部市立地適正化計画
○コンパクトかつ公共交通等ネットワークが充実したまちづくり

(4) 今後のまちづくりに必要な視点（第2次黒部市総合振興計画後期基本計画を踏まえて）

○人口減少社会への対応	○地球温暖化対策・脱炭素社会の実現
○安全・安心の確保	○デジタル社会の実現
○協働・共創のまちづくり	○支え合うまちづくり
○多様化・多様性の尊重	○SDGsの推進

(5) 市民の意向（第2次黒部市総合振興計画後期基本計画策定時の市民アンケート調査を踏まえて）

〔改善すべき点〕
○交通や買い物の不便さを解消し、生活利便性の高いまちづくりが必要
○本市にある魅力的な観光資源について、更に活用していくことが必要
○都市基盤について、優先的に改善すべき施策「情報・通信の整備」をはじめ、比較的満足度が低い「市街地・住宅の整備」、「公共交通の充実」、「道路の整備」などの推進を図ることが必要
〔目指すべき将来像〕
○本市の豊かな自然環境を保全・活用しながら、福祉や居住環境が充実したまちづくりが必要

(6) 優先的・重点的に対応すべき事項

- ① 市民と行政の協働による魅力あるまちづくり
- ② 人口減少や少子高齢化の進行
- ③ 市街地における人口密度の維持と郊外への拡大抑制
- ④ 黒部宇奈月温泉駅の開業等、道路・交通環境の変化
- ⑤ 地域特性や新たな施設整備を活かした観光・交流の活性化
- ⑥ 社会情勢の変化に順応した産業の改革・成長
- ⑦ 自然災害に備えた安全・安心なまちづくり
- ⑧ 脱炭素社会等の環境に配慮した持続可能なまちづくり
- ⑨ 雄大な自然環境の保全や良好な景観の保全・活用
- ⑩ デジタル技術を活用したまちづくり

上記の優先的・重点的に対応すべき事項を踏まえ、第3章の主要課題の見直しを行います。

第3章 主要課題

No	現 行	見直し案	前ページ(6)「優先的・重点的に対応すべき事項」との関連
1	<p>1 新幹線新駅を交流の拠点として整備する</p> <p>黒部ICに近接する地区では、平成26年度末までに開業予定である北陸新幹線の新駅の整備が進められています。</p> <p>北陸新幹線の開業を契機に来訪者の増加が期待されることなどから、このエリアを交流の拠点として周辺の土地利用と交通網の整備を推進することが重要です。</p>	<p>削除</p>	
2	—	<p>1 住民の参画と協働による魅力あるまちづくりとその見える化</p> <p>魅力創出に向けた取組を効果的に進め、検討状況を見える化しながら、今後一層、市民の皆さんと一緒にまちづくりについて考えていく必要があります。</p>	<p>① 市民と行政の協働による魅力あるまちづくり</p>
3	<p>2 地域の特性を活かし伸ばす</p> <p>黒部市は、北アルプス連峰や黒部川、富山湾など豊かな自然と多彩な歴史文化のもとで、生活や農業など生産活動等が行われてきました。</p> <p>市街地、農村、丘陵地など各々の地域が優れた資源や特性を有することから、これらを活かし伸ばすことで黒部市全体の魅力度の向上につなげていくことが重要です。</p>	<p>2 地域特性を活かした観光と産業の発展</p> <p>本市は、北アルプス、黒部川、富山湾など、豊かな自然と多彩な歴史文化の下で、魅力的な観光拠点が形成されるとともに、生活や農業などの生産活動が行われてきました。</p> <p>また、市街地、農村、丘陵地など、各々の地域が優れた資源や特性を有することから、これらを活かし伸ばすとともに、地域特性を活かした観光拠点の充実を図ることが必要です。</p> <p>さらに、近年の飛躍的な技術革新などにより、環境への配慮、技術の高度化が求められる時代となっており、DXの推進や脱炭素化など、新たな産業基盤の整備や企業の誘致、中小企業への支援など、本市全体の魅力向上につなげていく必要があります。</p>	<p>⑩ デジタル技術を活用したまちづくり</p> <p>⑥ 社会情勢の変化に順応した産業の改革・成長</p> <p>⑤ 地域特性や新たな施設整備を活かした観光・交流の活性化</p>
4	<p>3 交通ネットワークを強化する</p> <p>黒部市は、市内各地域を連絡する2つの鉄道や幹線道路網を有し、加えて高速道路のICが立地しているほか、新幹線新駅も設置されるなど交通の要衝となっています。</p> <p>こうした交通網を活かしながら、公共交通の充実をはじめ各地域の連携を強化させていくことで市全体の一体性を高めていくことが重要です。</p>	<p>3 恵まれた道路・交通網を活かした広域・地域連携の強化</p> <p>本市は、北陸新幹線、あいの風とやま鉄道及び富山地方鉄道の鉄道網のほか、北陸自動車道、国道8号などの幹線道路網が連絡しています。また、交通結節点となる黒部宇奈月温泉駅及び黒部ICについては、本市と都市部の連携を担っています。このほか、黒部宇奈月温泉駅に近接して新黒部駅が整備されています。</p> <p>広大な市域を有する本市においては、こうした道路・交通網を活かしながら、公共交通の充実を図り、鉄道駅と市内の各地域の連携を強化させていくことで、市街地のみならず、鉄道沿線、農村部、中山間地などに暮らす市民の交通利便性を確保しながら、市全体の一体性を高め、コンパクトなまちづくりを進めていくとともに、市内外との連携を強化していくことが必要です。</p> <p>また、高齢者にも利用しやすい移動手段の検討や、暮らしの足をより充実させる「出かけやすいまちづくり」の仕組み作りが必要です。</p> <p>このほか、北陸新幹線や黒部宇奈月キャニオンルートの効果を十分に発揮できるよう、引き続き、黒部宇奈月温泉駅周辺を広域交通の拠点として、交通網等を強化していくことが必要です。</p>	<p>④ 黒部宇奈月温泉駅開業等道路・交通環境の変化</p> <p>③ 市街地における人口密度の維持と郊外への拡大抑制</p> <p>② 人口減少や少子高齢化の進行</p>

No	現 行	見直し案	前ページ(6)「優先的・重点的に対応すべき事項」との関連
5	<p>4 安全で安心して暮らせる環境を創出する 全国的に少子高齢化などが進展し、黒部市においても同様の傾向がうかがえる一方で、土砂崩れや高波・津波など各種災害の発生は常に懸念があります。</p> <p>社会変動に適応しながら基盤施設の充実などを進め、子どもから高齢者まで誰もが安全・安心で快適に暮らせる環境を創出していくことが重要です。</p>	<p>4 安全で安心して暮らし続けることができる住環境の形成 全国的に人口減少、少子高齢化が進展しており、本市においても同様の傾向が伺えます。また、豪雨や地震などの自然災害については、頻発・激甚化しており、本市においても、その発生が常に懸念されます。</p> <p>このような社会情勢や環境の変化に対応しながら、一定の人口密度を維持し、都市機能の集積が進む市街地（用途地域内）を中心に、都市基盤施設を充実させることが必要です。</p> <p>加えて、空き家・空き地の適切な維持管理や利活用のほか、地域防災力の強化や防災意識の醸成を図るなど、子どもから高齢者まで、誰もが安全・安心で快適に暮らせる住環境を形成していくことが必要です。</p>	<p>⑦ 自然災害に備えた安全・安心なまちづくり</p>
6	<p>5 自然と景観を保全・活用する 黒部市は、北アルプス連峰や黒部川とその扇状地、富山湾など雄大な自然に加え、歴史的に形成された市街地などを擁し、各地で魅力的な景観をみせています。</p> <p>こうした本市が誇るべき優れた自然・環境や景観を保全・活用し、次代に継承していくことが重要です。</p>	<p>5 水と緑豊かな自然環境との共生や良好な景観の保全・活用 本市は、北アルプス、黒部川、黒部川扇状地、富山湾など、雄大な自然に加え、歴史的に形成された市街地などを擁し、各地で魅力的な景観を呈しています。</p> <p>こうした本市が誇るべき水と緑豊かな優れた自然環境や良好な景観を保全・活用し、次代に継承していくとともに、環境に配慮した脱炭素社会の構築などの推進が必要です。</p>	<p>⑨ 雄大な自然環境の保全や良好な景観の保全・活用</p> <p>⑧ 脱炭素社会等の環境に配慮した持続可能なまちづくり</p>

第4章 都市の将来目標（都市の将来像と理念）

No	現 行	見直し案	「主要課題」との関連
1	<p>平成18年3月の合併に伴って拡大した市域は、北アルプス連峰や黒部川とその扇状地、富山湾に代表される豊かな自然と多彩な歴史文化を蓄積し、これらが特有の景観を醸し出しています。また、歴史的に形成されてきた4つの既成市街地（三日市、生地、石田、宇奈月温泉）を擁し、それらがJR北陸本線や富山地方鉄道本線の鉄道網によって結ばれるといった特徴を有するとともに、平成26年度末までには北陸新幹線の開業も予定されています。</p> <p>こうしたなか、黒部市を取り巻く情勢は、少子高齢化と人口減少の到来、地球規模での環境問題の深刻化、市民の意識や価値観の変化など大きな時代の潮流があるなかで、それら諸課題に的確に対応していくため、黒部市が持つ豊かな自然環境やふるさとの歴史・生活・文化を有機的につなぎ、魅力あるまちづくりを推進することが求められています。</p> <p>このため、「黒部市総合振興計画」におけるまちづくりのテーマ『大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 黒部』を踏まえ、都市の将来像を『人・水・緑がきらめく ふれあいのまち』と定めるとともに、子どもから高齢者まですべての市民にとって「安全で安心なまちづくり」、メリハリのある土地利用と公共交通を重視した「コンパクトなまちづくり」、本市の特性を活かした「住み続けたい・訪れたい魅力的なまちづくり」を理念に、次項の5つを柱として都市整備を推進していきます。</p>	<p>本市は、北アルプス、黒部川、黒部川扇状地、富山湾など、豊かな自然と多彩な歴史・文化に恵まれています。また、歴史的に形成されてきた4つの既成市街地（三日市、生地、石田、宇奈月温泉）を擁し、それらがあいの風とやま鉄道及び富山地方鉄道によってつながっています。さらに、2015年（平成27年）には、北陸新幹線が開業しています。</p> <p>こうした中、本市を取り巻く社会経済情勢は、急激な人口減少や少子高齢化の到来、安全・安心に対する意識の高まり、地球環境問題の深刻化、グローバル化の進展、価値観の変化など、大きな時代の潮流の中で、それら諸課題に的確に対応していくため、本市が持つ豊かな自然環境やふるさとの歴史・生活・文化を有機的につなぎ、魅力あるまちづくりを推進することが求められています。</p> <p>また、地方移住の意識の高まり、リモートワーク及び複業の普及といったコロナ禍で生じた社会の変化をチャンスに変えていく必要があります。</p> <p>このため、「第2次黒部市総合振興計画」に掲げるまちづくりのテーマ『大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 黒部』を踏まえ、都市の将来像を『人・水・緑がきらめく ふれあいのまち』と定めます。</p> <p>まちづくりの理念については、1つ目に、第2次黒部市総合振興計画基本構想に掲げられた基本理念である「市民の参画と協働によるまちづくり」とします。自分たちのまちの将来のことを「我がこと」として考え、行動することを分かりやすく表し、より積極的に関わってもらうことを期待します。</p> <p>2つ目に、市民の皆さんが黒部のまちづくりについて誰もが「自分ごと」として捉え、さまざまな立場の枠を超え、まちの未来について考えていくこと、すなわち「みんなでつくろう黒部の未来」とします。</p> <p>3つ目に、黒部でも社会課題の解決（チャレンジ、夢の実現）のために生き生きと活動する方々、新たなチャレンジを応援していきます。そして住む人が輝き、その姿を見て人が集まる好循環のイメージを市民全体で共有するために、「みんなのチャレンジを応援し、住む人が輝き、人が人を呼び込むまち」とします。</p> <p>このほか、市街地までの移動や市街地内での移動をスムーズにすることで「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」、メリハリのある土地利用と公共交通を重視した「コンパクトなまちづくり」を基本理念とし、次項の4つを柱として都市整備を推進します。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1 住民の参画と協働による魅力あるまちづくりとその見える化 2 地域特性を活かした観光と産業の発展 3 恵まれた道路・交通網を活かした広域・地域連携の強化 4 安全で安心して暮らし続けることができる住環境の形成 5 水と緑豊かな自然環境との共生や良好な景観の保全・活用

No	現 行	見直し案	「主要課題」との関連
2	<p>将来都市像の体系</p> <p>まちづくりのテーマ[黒部市総合振興計画] 『大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 黒部』</p> <p>都市の将来像 『人・水・緑がきらめく ふれあいのまち』</p> <p>まちづくりの理念 ○安全・安心なまちづくり ○コンパクトなまちづくり ○住み続けたい・訪れたい魅力的なまちづくり</p> <p>都市整備の柱 1) 北陸新幹線新黒部駅(仮称)を交流拠点としたまちづくり 2) 地域の特性を活かしたまちづくり 3) 交通ネットワークを活かしたまちづくり 4) 安全で安心して暮らせるまちづくり 5) 自然と景観を活かすまちづくり</p>	<p>将来都市像の体系</p> <p>まちづくりのテーマ[第2次黒部市総合振興計画] 『大自然のシンフォニー 文化・交流のまち 黒部』</p> <p>都市の将来像 『人・水・緑がきらめく ふれあいのまち』</p> <p>まちづくりの理念 ○市民の参画と協働によるまちづくり ○みんなでつくろう黒部の未来 ○みんなのチャレンジを応援し、住む人が輝き、人が人を呼び込むまち ○出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり ○コンパクトなまちづくり</p> <p>都市整備の柱 1) 交通ネットワークを活かしたまちづくり 2) 地域(山・里・川・海)の特性を活かしたまちづくり 3) 安全で安心して暮らせるまちづくり 4) 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり</p>	

第4章 都市の将来目標 (都市整備の柱)

No	現 行	見直し案	「主要課題」との関連
1	<p>1 北陸新幹線新黒部駅(仮称)を交流拠点としたまちづくり 新幹線新駅周辺は、南北方向を連絡する北陸新幹線や北陸自動車道の基幹交通と東西方向を連絡する富山地方鉄道本線や主要道路等の都市内幹線が交差する交通の要衝であり、本市だけでなく県東部地域も含めた広域交通の新しい拠点として、「住み続けたい・訪れたい魅力的なまちづくり」の根幹をなすものです。 新幹線新駅周辺は、広域交通とともに広域観光の拠点としても位置づけ、公共交通網や幹線道路網との円滑・快適な接続、黒部ICとの連絡に努めるとともに、広域観光情報の提供、商業・業務機能の立地や周辺景観の誘導などにより、県東部の玄関口として役割を果たすこととします。</p>	<p>削除</p>	<p>—</p>
2	<p>3 交通ネットワークを活かしたまちづくり 「コンパクト」で「魅力的」なまちづくりを市全体において一体的に進めるためには、それぞれの地域が有機的に連携していくことが不可欠です。 このため、北陸新幹線、北陸自動車道、国道8号バイパスなどの基幹交通とそれに直交する都市内幹線を交通の骨格と位置づけ、JR北陸本線や富山地方鉄道本線などの公共交通の充実を図るとともに、幹線道路の整備を促進します。また、市民のきめ細かな足として、コミュニティ交通の導入の検討を行います。</p>	<p>1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 本市は、北陸新幹線をはじめとする鉄道網のほか、北陸自動車道、国道8号などの幹線道路網による恵まれた交通網を有しています。 まちづくりの理念である「コンパクトなまちづくり」及び「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」を市全体で一体的に進めるためには、鉄道・道路などの交通網による都市機能を更に高め、各地域が有機的に連携していくことが不可欠です。 このため、コンパクトなまちづくりと鉄道・道路などの交通ネットワークの強化に向けて、関係機関と連携しながら、北陸自動車道、国道8号などの道路網や、鉄道・バス路線などの公共交通網の充実を図ります。</p>	<p>3 恵まれた道路・交通網を活かした広域・地域連携の強化</p>

No	現 行	見直し案	「主要課題」との関連
		<p>また、公共交通等の充実により、中心市街地までの移動をスムーズにするとともに、中心市街地においては、高齢者にも利用しやすい電動小型カート※1の導入などにより、暮らしの足を充実させ、「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」を推進し、中心市街地への居住や都市機能の誘導を図り、魅力的でコンパクトなまちづくりの実現に努めます。</p> <p>さらに、一般のドライバーが自家用車を使って有償で人を運ぶ「ライドシェア」については、国の動向を注視しながら、導入の可能性について検討します。</p> <p>加えて、黒部宇奈月温泉駅周辺については、広域的な交通拠点として位置付け、公共交通や幹線道路との円滑で快適な道路・交通ネットワークの構築を図るとともに、近接する新黒部駅や黒部ICとの円滑な連絡に努めます。また、広域観光情報の発信のほか、住宅や田園等において周辺景観を阻害しない適切な景観誘導を行うなど、県東部の交通拠点としての取組を推進します。</p>	
3	<p>2 地域の特性を活かしたまちづくり</p> <p>黒部市は、北アルプス連峰、黒部川、里山、扇状地、富山湾まで標高差が3000mに及ぶ変化に富んだ美しい自然を擁するほか、多彩な歴史文化などに恵まれています。こうした地域ならではの資源を活かして個性的なまちづくりを進めることは、「住み続けたい・訪れたい魅力的なまちづくり」の前提となるものです。</p> <p>このため、北陸新幹線開業を契機に来訪者の増加を促すとともに、市民の地域への愛着や誇りを高めながら、各地区の特性を伸ばす個性的な地域振興を通して、市全体の魅力を向上させていきます。</p>	<p>2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり</p> <p>本市は、北アルプス、黒部川、里山、扇状地、富山湾まで標高差が3,000mに及ぶ変化に富んだ美しい自然を擁するほか、多彩な歴史文化などに恵まれています。また、黒部川の豊かな水を活かした、農業、工業などの多様な産業が根付いています。</p> <p>こうした地域資源や産業を活かしながら、市民の地域への愛着や誇りを高め、各地域の特性を伸ばす魅力的な地域振興を図ります。また、デジタル技術の活用による生活の利便性向上に努めるとともに、本市の産業の活性化に寄与するまちづくりを推進します。</p>	2 地域特性を活かした観光と産業の発展
4	<p>4 安全で安心して暮らせるまちづくり</p> <p>子どもから高齢者まで、全ての市民が「安全・安心」に暮らすためには、災害や交通事故などから安全であるだけでなく、日常生活の利便性が確保されていることが欠かせません。</p> <p>このため、地震・津波等の自然災害や火災・豪雨等の都市災害の予防と減災対策を進めるとともに、交通安全の確保や公共公益施設のバリアフリー化などを推進し、安全・安心で快適なまちの実現に努めます。</p>	<p>3 安全で安心して暮らせるまちづくり</p> <p>子どもから高齢者まで、全ての市民が安全・安心に暮らすためには、災害や交通での安全性は当然のこと、日常生活の利便性が確保されていることが欠かせません。</p> <p>近年、頻発・激甚化する自然災害や火災等の予防と減災対策を進めるとともに、交通安全の確保、公共公益施設のバリアフリー化などを推進し、安全で安心して暮らしていることができるまちの実現に努めます。</p>	4 安全で安心して暮らし続けることができる住環境の形成
5	<p>5 自然と景観を活かすまちづくり</p> <p>成熟社会において「魅力的」なまちを目指すうえで、日々の暮らしを取り巻く景観を美しいものにしていくことは、都市の品格や交流人口の受入とも関わって重要な意味を持っています。</p> <p>幸い本市には雄大な自然と美しい景観があることから、自然環境の保全・活用を図るとともに、山岳景観、散居等農村景観、歴史的まちなか景観などを市民との協働で保全・創出するほか、観光地や幹線交通周辺等で景観阻害が生じないよう景観条例の策定などにより規制誘導を図っていきます。</p>	<p>4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり</p> <p>都市を取り巻く自然環境や景観を良好に保ち、次世代に継承していくことは、都市の品格や交流・関係人口の拡大と密接に関わっています。</p> <p>本市は、雄大な自然と美しい景観を有していることから、生物多様性を尊重しながら、自然環境との共生を念頭に保全・活用を図るとともに、山岳景観、散居等農村景観、歴史的まちなか景観などを市民との協働で保全・創出します。</p> <p>また、観光地や幹線道路沿い等で景観阻害が生じないよう、屋外広告物等の適切な誘導を図り、景観に配慮したまちづくりを推進します。</p>	5 水と緑豊かな自然環境との共生や良好な景観の保全・活用

※1 電動小型カート：環境性能に優れ、時速20km未満で公道を走行することができる乗車定員が少人数の車両のこと。

第5章 都市の整備方針

No	現 行	見直し案	「都市の将来目標」との関連
	5-1 将来都市構造 (1) 人・モノ・情報のつながり		
1	<p>まちづくりの理念として掲げた「住みたい・訪れたい魅力的なまちづくり」を進めていくためには、黒部市の地域特性や景観を活かしつつ、新幹線新駅を交流拠点としながら、交通ネットワークを活かした「コンパクトなまちづくり」を進め「人・モノ・情報」の交流を強化していく必要があります。</p> <p>そのために、隣接圏や大都市圏と連絡する「外とのつながり」を強めていくとともに、市内の海岸部から山間部まで東西方向に連絡する「市内のつながり」を強めていきます。</p> <p>① 外とのつながり 南北方向の「広域交流連携軸」として位置づけられる北陸自動車道と北陸新幹線の2つの高速交通幹線に併せて、国道8号バイパスとJR北陸本線により、本市と富山市・金沢市・関西圏及び上信越・関東圏とを円滑に連絡し、広域連携を深めていきます。</p> <p>② 市内のつながり 上記の「外とのつながり」に直交する富山地方鉄道本線や県道、都市計画道路等の幹線道路及び補助幹線道路により市内のつながりを強化するとともに、富山地方鉄道本線の各駅勢圏内について計画的な住宅立地を促し、「コンパクトなまちづくり」を推進します。</p>	<p>本市の地域特性や景観を活かしつつ、黒部宇奈月温泉駅周辺を広域交通の拠点としながら、道路・交通ネットワークを活かした「コンパクト・プラス・ネットワーク※1」の考え方に基づいたまちづくりを進め、「人・モノ・情報」の交流を強化していく必要があります。</p> <p>そのために、隣接圏や大都市圏と連絡する「外とのつながり」を強化するとともに、市内の海岸部から山間部まで東西方向に連絡する「市内のつながり」を強化します。</p> <p>① 外とのつながり 本市を南北方向に縦断し、広域連携を担う北陸新幹線、あいの風とやま鉄道、北陸自動車道及び国道8号を「外とのつながり」と位置付け、本市と富山市、金沢市、関西圏、上信越及び関東圏との広域交流を強化します。</p> <p>② 市内のつながり 「外とのつながり」に直交する富山地方鉄道や県道、都市計画道路等の幹線道路及び補助幹線道路を「市内のつながり」と位置付け、市内の地域間の連携を強化します。 また、「黒部市立地適正化計画」で定めた居住誘導区域を基本に居住誘導を図りつつ、富山地方鉄道の各駅周辺においても、計画的な居住誘導を促し、「コンパクト・プラス・ネットワーク※1」の考え方に基づいたまちづくりを推進します。</p>	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
	5-1 将来都市構造 (2) 地域区分の設定		
2	<p>まちづくりの理念として掲げた「住みたい・訪れたい魅力的なまちづくり」を目指すには、「地域の特性を活かしたまちづくり」と「自然と景観を活かすまちづくり」を展開していく必要があります。</p> <p>このため、地域が持つ魅力の源泉を最大限に活かせるよう、市域を地形・立地、歴史、産業、土地利用等を念頭に次の7地域に区分し、個々の特性を伸ばしながら活力を生み出す魅力あるまちづくりを進めていきます。</p> <p>なお、地域区分の設定にあたっては「黒部市総合振興計画」の軸、拠点、ゾーンを基本としながら次のように設定します（図5-1、詳細は第6章）。</p>	<p>地域区分については、「第2次黒部市総合振興計画基本構想」の土地利用方針を基本とします。</p> <p>また、市域については、地形・立地、歴史、産業、土地利用等を念頭に次の7地域に区分し、個々の特性を伸ばしながら、活力を生み出す魅力あるまちづくりを進めます。</p> <p>なお、地域区分については、「第2次黒部市総合振興計画基本構想」の軸、拠点、ゾーンを基本とし、次のように設定します（詳細は、「第6章地域別構想」において整理）。</p>	-
	5-1 将来都市構造 (2) 地域区分の設定 1) 海岸部		
3	<p>「黒部市総合振興計画」において「海辺のきらめきゾーン」、「海浜レクリエーション拠点」と位置づけられているこの地域は、海岸の良好な地域資源を活かしながら、海浜レクリエーションや観光機能の充実を図っていきます。さらには市内外の施設と広域連携を深めながら、まち歩き等の観光振興に努めます。</p> <p>また、市街地については漁業のまちとしての歴史を踏まえながら、生活の利便性向上のための施策に努めます。</p>	<p>「第2次黒部市総合振興計画基本構想」において、「海辺のきらめきゾーン」となる富山湾に面した地域を「海岸部」と位置付け、黒部漁港、石田フィッシャリーナ、大島キャンプ場、石田浜などの良好な地域資源を活かしながら、海浜レクリエーションや観光機能の充実を図るとともに、良好な居住環境の形成や特色のある経済活動を後押しします。また、市内外の施設と連携を図りながら、まち歩き等の観光振興を推進します。</p> <p>さらに、既成市街地については、漁業のまちとしての歴史を踏まえながら、景観の保全や居住環境の改善を図るとともに、道路や水道・下水道等の都市基盤の整備・改善により、生活利便性の向上を図ります。</p> <p>加えて、道の駅KOKOくろべ周辺においては、地域振興に貢献する観光・にぎわい拠点としての土地利用を図ります。</p> <p>このほか、生地駅周辺では、地元振興会などが民間企業と連携し、まちづくり構想を進めており、地元や民間企業との役割分担の下、相互に連携しながら、適切な土地利用を推進します。</p>	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり 4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
	5-1 将来都市構造		

※1 コンパクト・プラス・ネットワーク：人口減少や高齢化が進む中、地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めるという考え方。

No	現 行	見直し案	「都市の将来目標」との関連
	(2) 地域区分の設定 2) 農村部		
4	「黒部市総合振興計画」において「扇状地のめぐみゾーン」に位置するこの地域は、農業生産の振興を図る地域として、関係機関と連携しながら無秩序な開発の抑制に努めます。併せて集落の生活環境の向上に努めるとともに、田園（散居）景観の保全に努めます。	「第2次黒部市総合振興計画基本構想」において、「扇状地のめぐみゾーン」となる黒部川扇状地に広がる農地及び集落を「農村部」と位置付け、農業生産の振興を図る地域として、関係機関と連携しながら、無秩序な開発の抑制などによる農地の保全を図ります。 また、集落の生活環境の向上に努めるとともに、田園景観の保全を図ります。	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり 4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
	5-1 将来都市構造 (2) 地域区分の設定 3) 中心市街地		
5	商業、医療、文化、教育、行政などが集積している三日市市街地とその周辺については、黒部市の中心市街地と位置づけ、集積したそれぞれの都市機能の充実を図るとともに、効率的なまちづくりの観点から、市街地の外延的拡大を避け、中心市街地において公共交通等を重点的に整備することにより、まちなか居住を促進します。併せて、商業の活性化を図り、本市のみならず周辺市町からも利用される市街地として都市機能の整備充実を図ります。	商業、医療、文化、教育、行政などが集積している三日市地区とその周辺を「中心市街地」と位置付け、コンパクトなまちづくりの観点から、市街地の拡大を抑制し、中心市街地での公共交通の充実を図り、まちなか居住や都市機能の集積・充実を促進します。 また、くろべ市民交流センター「あおーよ」については、市民が集い学ぶ、文化・交流の拠点として、市民の交流を積極的に推進し、新たな価値を創造するとともに、市民の主体的な活動の推進、市民協働の実現、さらには、未来の黒部市を担う人材を育成する場を提供する施設であり、同センターで実施される各種事業と連携しながら、まちなかのぎわい創出を図ります。 さらに、商店街の再生、空き家や空き店舗の利活用などによる商業の活性化を図り、本市のみならず、周辺市町からも利用される市街地として都市機能の整備・充実を図るとともに、高齢者にも利用しやすい電動小型カート ^{※1} の導入などにより、暮らしの足を充実させ、「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」を推進します。 加えて、道路や水道・下水道、緑地等の都市基盤の充実と機能性の向上を図るとともに、既存公共施設再編の取組の中で、遊休施設となったものについては、処分を含めた利活用を進めます。 このほか、黒部駅の利便性向上を図るために必要な施設整備を計画するとともに、駅西側をはじめとした駅周辺においては、適切な土地利用の推進に努めます。	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
	5-1 将来都市構造 (2) 地域区分の設定 4) 新駅周辺	5-1 将来都市構造 (2) 地域区分の設定 4) 新幹線駅周辺	
6	「黒部市総合振興計画」において「交流拠点」と位置づけられている新幹線新駅及び黒部ICの周辺は、関連整備計画等を通じて、交通結節機能、交流機能、観光情報機能、商業機能などの充実に努め、県東部の玄関口・拠点として機能させます。	「第2次黒部市総合振興計画基本構想」において、「交通拠点」となる黒部宇奈月温泉駅及び黒部IC周辺を「新幹線駅周辺」と位置付け、首都圏や関西圏をはじめとする広域の交通拠点として、交通結節機能、観光情報機能などの充実により、来訪者と市民の交通便利性の向上を図ります。	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
	5-1 将来都市構造 (2) 地域区分の設定 5) 地鉄沿線		
7	富山地方鉄道本線沿いに集落が連たんしている荻生駅から音沢駅に加え、宇奈月温泉までの沿線を地鉄沿線とします。この地域は、富山地方鉄道本線の各駅から徒歩や自転車で移動できるとともに自然環境に囲まれたゆとりある地域として、鉄道駅周辺への計画的な住宅地の誘導・集約化を図り、鉄道網を活用した「コンパクトなまちづくり」を推進します。	集落が連なる荻生駅から音沢駅に加え、宇奈月温泉駅までの富山地方鉄道沿いを「地鉄沿線」と位置付け、富山地方鉄道の各駅から徒歩や自転車で移動でき、自然と調和したゆとりある地域の形成を目指します。 また、鉄道駅周辺への計画的な住宅地の誘導・集約化を図り、鉄道を活用した「コンパクト・プラス・ネットワーク ^{※2} 」の考え方に基づいたまちづくりを推進します。	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり

※1 電動小型カート：環境性能に優れ、時速20km未満で公道を走行することができる乗車定員が少人数の車両のこと。

※2 コンパクト・プラス・ネットワーク：人口減少や高齢化が進む中、地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めるという考え方。

No	現 行	見直し案	「都市の将来目標」との関連																																									
	5-1 将来都市構造 (2) 地域区分の設定 6) 中山間地																																											
8	布施川上流域や前沢地区の丘陵地に展開する地域は、「黒部市総合振興計画」において「里山のいやしゾーン」に位置しており、緑豊かな立地環境を活かして、農林業体験や収穫作物の炊事体験等を行うグリーンツーリズム等により、住民と都市圏との交流を促進し、地域の活力を向上させていきます。	「第2次黒部市総合振興計画基本構想」において、「里山のいやしゾーン」となる布施川上流域や前沢地区の丘陵地一帯を「中山間地」と位置付け、緑豊かな自然環境を活かした自然観察や体験学習などが行えるゾーンの形成を図ります。 また、山林と農地を維持・保全し、地域の強みを活かした農林業の振興を図るとともに、鳥獣対策を推進します。	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり 4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり																																									
	5-1 将来都市構造 (2) 地域区分の設定 7) 宇奈月温泉																																											
9	「黒部市総合振興計画」の「観光・文化拠点」である宇奈月温泉街は、黒部峡谷の入口に位置し、国の内外から多くの観光客が訪れる温泉街であることから、雄大な自然を守り活かしながら広域連携を深め、来訪者の増加に努めるとともに、高齢化や国際化にも対応した温泉・保養地として各種施設の整備や街並み環境整備など観光地としての魅力向上に努めます。	「第2次黒部市総合振興計画基本構想」の「観光交流拠点」の一つであり、県内最大の温泉街である宇奈月温泉及びその周辺を「宇奈月温泉」と位置付け、雄大な自然を保全・活用しながら、広域連携を強化し、来訪者の増加に努めます。 また、高齢化や国際化にも対応した温泉・保養地として各種施設や街並み環境の整備など、自然と調和した観光地としての魅力向上を図ります。	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり 4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり																																									
10	黒部市総合振興計画と都市計画マスタープランの位置づけの整理 <table border="1" data-bbox="305 900 1279 1377"> <thead> <tr> <th></th> <th>黒部市総合振興計画</th> <th>都市計画マスタープラン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">つながり</td> <td rowspan="2">広域交流連携軸</td> <td>外とのつながり（南北方向）</td> </tr> <tr> <td>市内のつながり（東西方向）</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">地域区分</td> <td rowspan="2">海辺のきらめきゾーン</td> <td>海岸部</td> </tr> <tr> <td>農村部</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">扇状地のめぐみゾーン</td> <td>中心市街地</td> </tr> <tr> <td>新駅周辺</td> </tr> <tr> <td>地鉄沿線</td> </tr> <tr> <td>里山のいやしゾーン</td> <td>中山間地</td> </tr> <tr> <td>山岳のかがやきゾーン</td> <td>宇奈月温泉</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>—</td> </tr> </tbody> </table>		黒部市総合振興計画	都市計画マスタープラン	つながり	広域交流連携軸	外とのつながり（南北方向）	市内のつながり（東西方向）	地域区分	海辺のきらめきゾーン	海岸部	農村部	扇状地のめぐみゾーン	中心市街地	新駅周辺	地鉄沿線	里山のいやしゾーン	中山間地	山岳のかがやきゾーン	宇奈月温泉			—	第2次黒部市総合振興計画と黒部市都市計画マスタープランの位置づけの整理 <table border="1" data-bbox="1353 900 2421 1346"> <thead> <tr> <th></th> <th>第2次黒部市総合振興計画</th> <th>黒部市都市計画マスタープラン</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">つながり</td> <td rowspan="2">広域交流連携軸 地域交流連携軸</td> <td>外とのつながり（南北方向）</td> </tr> <tr> <td>市内のつながり（東西方向）</td> </tr> <tr> <td rowspan="5">地域区分</td> <td rowspan="2">海辺のきらめきゾーン</td> <td>海岸部</td> </tr> <tr> <td>中心市街地</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">扇状地のめぐみゾーン</td> <td>農村部</td> </tr> <tr> <td>新幹線駅周辺</td> </tr> <tr> <td>地鉄沿線</td> </tr> <tr> <td>里山のいやしゾーン</td> <td>中山間地</td> </tr> <tr> <td>山岳のかがやきゾーン</td> <td>宇奈月温泉</td> </tr> </tbody> </table>		第2次黒部市総合振興計画	黒部市都市計画マスタープラン	つながり	広域交流連携軸 地域交流連携軸	外とのつながり（南北方向）	市内のつながり（東西方向）	地域区分	海辺のきらめきゾーン	海岸部	中心市街地	扇状地のめぐみゾーン	農村部	新幹線駅周辺	地鉄沿線	里山のいやしゾーン	中山間地	山岳のかがやきゾーン	宇奈月温泉	
	黒部市総合振興計画	都市計画マスタープラン																																										
つながり	広域交流連携軸	外とのつながり（南北方向）																																										
		市内のつながり（東西方向）																																										
地域区分	海辺のきらめきゾーン	海岸部																																										
		農村部																																										
	扇状地のめぐみゾーン	中心市街地																																										
		新駅周辺																																										
		地鉄沿線																																										
里山のいやしゾーン	中山間地																																											
山岳のかがやきゾーン	宇奈月温泉																																											
		—																																										
	第2次黒部市総合振興計画	黒部市都市計画マスタープラン																																										
つながり	広域交流連携軸 地域交流連携軸	外とのつながり（南北方向）																																										
		市内のつながり（東西方向）																																										
地域区分	海辺のきらめきゾーン	海岸部																																										
		中心市街地																																										
	扇状地のめぐみゾーン	農村部																																										
		新幹線駅周辺																																										
		地鉄沿線																																										
里山のいやしゾーン	中山間地																																											
山岳のかがやきゾーン	宇奈月温泉																																											

No	現行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-2 土地利用の方針 (1) 都市計画区域			
10	都市としての一体性を確保するため、合併前の旧黒部市と旧宇奈月町の両都市計画区域を一体化します。	削除	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・事業完了のため、記述の削除	—
11	加えて、住宅や廃棄物処理施設等の開発圧力が高い中山間地において、豊かな自然環境の保全と安全・安心な住環境を保持するため、住民の意向を踏まえながら都市計画区域の見直し（拡大）を行います。	削除	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・事業完了のため、記述の削除	—
	5-2 土地利用の方針 (2) 用途地域及び市街地等			
12	現在 623ha の区域を用途地域に指定しているなかで、工業地域及び工業専用地域を除く用途地域内の人口密度は 30.6 人/ha（平成 17 年のデータによる）と低密度な市街地形態となっています。 「コンパクトなまちづくり」を進める観点から、用途地域内における土地の高度利用を促進するとともに、新幹線開業に伴う新たな市街地需要に対しては、地区計画制度等の活用により計画的な市街地誘導を図っていきます。	現在623haの区域を用途地域に指定している中で、工業地域及び工業専用地域を除く用途地域内の人口密度は、 27.1人/ha（令和5年度黒部市都市計画基礎調査のデータによる） と低密度な市街地形態となっています。 「黒部市立地適正化計画」のまちづくり方針である「コンパクトかつ公共交通等ネットワークが充実したまちづくり」を進める観点から、無秩序な市街化を防止し、都市と農村との調和を図りながら、用途地域内での土地の高度利用を促し、居住誘導区域及び都市機能誘導区域への居住及び都市機能の誘導を図ります。 鉄道駅周辺では、適切な土地利用の推進に努めながら、生活利便性の確保と居住の維持を図ります。 黒部宇奈月温泉駅及び黒部IC周辺については、県東部の玄関口にふさわしい地域となるよう、景観に配慮するとともに、適切な土地利用を図ります。 新たな都市的土地利用が予想される黒部駅及び生地駅周辺についても適切な土地利用に努めます。 道の駅KOKOくろべ周辺については、新たな商業施設や住宅団地の需要が見られることから、必要に応じて用途地域の設定を検討します。 (都)入善・黒部・魚津8号バイパス線、(都)(仮称)前沢荻生線(現：国道8号線)及び(都)新駅中新線については、主要な都市計画道路であることから、それぞれの沿道において、適切な土地利用に努めます。	【問題点・課題】 ・引き続き、立地適正化計画に基づき、都市機能誘導区域への都市機能の誘導が必要 【見直しの考え方】 ・黒部市立地適正化計画との整合性を図るため、内容の充足	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
13	また、用途地域内においてカドミウム汚染の土壤復元を行った営農意欲の高い農地については、用途地域から除外することとします。	削除	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・用途地域からの除外は、現実的でないため、記述の削除	—
14	併せて、土地利用動向を踏まえながら適宜に用途地域の見直しを行うとともに、用途地域の指定境界については、現状の利用状況や地形地物による明確化などの観点から、必要に応じて適切な区域を境界となるように調整していきます。	あわせて、土地利用動向を踏まえながら、必要に応じて、用途地域の見直しを行うとともに、用途地域の指定境界については、土地利用の状況との整合性や地形地物による明確化などの観点から、適切な区域を境界とするよう調整します。 このほか、地域特性を活かした快適で魅力ある居住環境の形成を図ります。	【問題点・課題】 ・社会情勢の変化に対応するため、必要に応じて、用途地域の見直しを検討 【見直しの考え方】 ・適正な土地利用の誘導に向けた都市計画制度の活用検討	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-2 土地利用の方針 (2) 用途地域及び市街地等 1) 商業系			
15	商業・業務施設等が集積する中心市街地（三日市地区）において、高次都市機能の充実・集積化を図るとともに、地域住民や団体と協働しながら、魅力ある中心市街地づくりを推進します。	商業・業務施設等が集積している三日市地区においては、都市機能誘導区域への更なる都市機能の誘導を図ります。 また、空き家・空き店舗の利活用に向けた支援のほか、地域住民や関係団体との連携などにより、魅力ある中心市街地の形成に努めながら、にぎわいのあるまちづくりを推進します。	【問題点・課題】 ・引き続き、黒部市立地適正化計画に基づき、市街地を中心として都市機能誘導区域への都市機能の誘導を図ることが必要 【見直しの考え方】 ・黒部市立地適正化計画との整合性や中心市街地のにぎわい創出・活性化に向けた内容の充足	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
16	特に鉄道を中心としたまちづくりを進める観点から、主要鉄道駅周辺において民間による土地利用の高度化が促進されるよう、容積率等の弾力的な運用を行います。	さらに、鉄道を中心としたまちづくりを進める観点から、主要鉄道駅周辺での民間による土地利用の高度化が促進されるよう、容積率等の弾力的な運用を行います。	【問題点・課題】 ・必要性を見極めながら、対応を検討 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、鉄道を中心としたまちづくりの推進	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
17	海岸部の生地地区においては、観光客のまち歩きを促進するため、地域住民や団体と協働しながら観光客にとって魅力のある商業地の形成に努めます。	海岸部の生地地区においては、観光客のまち歩きを促進するため、地域住民や関係団体と協働しながら、観光客にとって魅力ある商業地の形成に努めます。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、生地地区での観光客にとって魅力のある商業地の形成	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
18	特に黒部漁港周辺においては、集客力の向上を図る観点から観光型の商業集積を促進することとします。	特に黒部漁港周辺においては、集客力の向上を図る観点から、観光型の商業集積を促進します。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、黒部漁港周辺での観光型の商業集積の促進	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
19	また、石田地区においては、レジャー客に対応した飲食・販売施設や、地場産品・最寄り品の販売など日常生活にも密着した商業施設の立地を促進します。	石田地区においては、レジャー客に対応した飲食・販売施設や、地場産品・最寄り品の販売など、日常生活にも密着した商業施設の立地を促進します。 このほか、用途地域外の地区においても、日常生活に密着した商業施設等は、各地区の拠点としての役割を有していることから、その維持に努めます。	【問題点・課題】 ・道の駅に隣接する「誘致ゾーン」については、道の駅と連携したにぎわい創出を図ることが必要（No22で追記） 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、石田地区での飲食・販売施設、日常生活に密着した商業施設の立地促進 ・道の駅周辺も含めた新たなにぎわい創出ゾーンとしての位置づけ強化（No22で追記）	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり

No	現行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
20	本県最大の温泉街である宇奈月温泉においては、まちなかの回遊性が高まるよう飲食・休憩施設や文化施設等の導入を図るとともに、地域住民や団体と協働しながら魅力ある街並みの形成に努めます。	県内最大の温泉街である宇奈月温泉においては、 芸術創造センターセレネや宇奈月温泉総湯「湯めどころ宇奈月」を拠点とし、更なるにぎわい・交流の創出を図るとともに 、まちなかの回遊性が高まるよう、飲食、休憩施設等の 立地を誘導するほか、空き店舗の利活用を推進し 、地域住民や 関係団体と協働しながら 、魅力ある街並みの形成に努めます。 また、温泉街の近隣に位置する宇奈月温泉スキー場においては、 通年にわたる利用を検討します。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・宇奈月温泉のにぎわい・交流の創出に向けた内容の充足	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
21	新幹線新駅周辺においては、交流・観光・商業などの諸機能を備えた拠点として整備充実を促します。	削除	【問題点・課題】 ・駅開業から8年が経過しており、駅周辺の在り方について、検討していくことが必要 【見直しの考え方】 ・近年の状況を踏まえ、商業系の土地利用は、想定されにくいため、削除	—
22	—	このほか、 新たな観光・にぎわい拠点である道の駅KOKOくろべ周辺においては、集客力のある施設が集積することで、複合的に一体感のあるエリアを生み出し、地域振興に資するにぎわいの創出を図ります。	(No19 関連として追記)	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
5-2 土地利用の方針 (2) 用途地域及び市街地等 2) 工業系				
23	現在、工業地域又は工業専用地域として用途地域の指定がされている3地区に加え、黒部IC周辺に立地する工場については、今後も工業の利便増進に努めるとともに、緩衝緑地の充実などにより、周辺環境・景観との調和に努めます。	現在、工業地域又は工業専用地域として用途地域の指定がされている3 地域 に加え、黒部IC周辺に立地する工場については、今後も 工業基盤の整備や工場の集積を図り、本市の産業振興に寄与する活動と緩衝緑地の充実などによる周辺環境・景観との調和を促します。	【問題点・課題】 ・市で整備（関与）した企業団地については、用途の検討が必要 【見直しの考え方】 ・適正な土地利用の誘導に向けた都市計画制度の活用検討	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
24	なお、JR黒部駅に近接し、工業的利用がなされていない地区にあっては、中心市街地の活性化に向けて、地域住民や団体と協働しながら適切な土地利用を検討していきます。	また、黒部駅に近接し、工業的利用がなされていない地区においては、中心市街地の活性化に向けて、地域住民や 関係団体と協働しながら 、適切な土地利用を検討します。	【問題点・課題】 ・地域住民や関係団体との協議・調整が必要 【見直しの考え方】 ・適正な土地利用の誘導に向けた都市計画制度の活用検討（必要に応じた用途地域の見直し）	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
25	また、石田地区や生地地区の漁業関連施設などが住宅と混在して立地する地区においては、住環境を阻害する工場の立地を防ぐため、地場産業工場に限定した地区とします。	さらに 、石田地区や生地地区の漁業関連施設などが住宅と混在して立地する地区においては、住環境を阻害する工場の立地を防ぐため、地場産業工場に限定した地区とします。	【問題点・課題】 ・当該地区を地場産業工場に限定した地区にする検討が必要 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、漁業関連施設などと住宅が混在した地区について、地場産業工場に限定した地区としての設定	3 安全で安心して暮らせるまちづくり

No	現行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-2 土地利用の方針 (2) 用途地域及び市街地等 3) 住居系			
26	中心市街地や海岸部の市街地の周辺部においては、基盤の整った良好な住宅地が形成されていることから、今後も良好な住環境の保持に努めるとともに、現在進められている「三日市保育所周辺土地地区画整理事業」など計画的な市街地整備を進めていきます。	中心市街地や海岸部の市街地の周辺部においては、都市基盤の整った良好な住宅地が形成されていることから、今後も良好な居住環境を維持するとともに、「三日市保育所周辺土地地区画整理事業」の進捗を図るなど、計画的な市街地整備を進めます。	【問題点・課題】 ・土地地区画整理事業については、移転が必要な物件数が多く、事業が長期化しているが、今後も着実に事業を推進し、居住環境の向上に取り組むことが必要 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、良好な住環境の保持に向けた「三日市保育所周辺土地地区画整理事業」などの推進	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
27	新たな住宅需要に対しては、鉄道を中心としたまちづくりを進める観点から、鉄道駅やバス停周辺などを中心に立地誘導を図ることとします。	新たな住宅地の需要については、「コンパクト・プラス・ネットワーク ^{※1} 」の考え方に基づいたまちづくりを進める観点から、「黒部市立地適正化計画」で設定した居住誘導区域を中心に居住誘導を図るほか、富山地方鉄道の各駅周辺においても、居住誘導を図ります。	【問題点・課題】 ・バス停中心の立地誘導は困難 【見直しの考え方】 ・黒部市立地適正化計画との整合性や実現可能性を見据えた表現に修正	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
28	第一種住居地域や第二種住居地域として用途地域に指定されている地区などでは、住宅を主体としつつ、医療・福祉施設や日常生活施設等の充実により生活利便の向上を図っていきます。	第一種住居地域 ^{※2} や第二種住居地域 ^{※3} など、住居系の用途地域に指定されている地区では、住宅を主体とした立地を誘導するとともに、「黒部市立地適正化計画」に基づく都市機能誘導区域での生活利便施設の立地誘導により、生活の利便性向上を図ります。	【問題点・課題】 ・引き続き、都市機能誘導区域内への都市機能施設等の誘導施策を講じることが必要 【見直しの考え方】 ・黒部市立地適正化計画との整合性を図るため、内容の充足	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
29	また、木造建築物が密集する地区など、災害に対して脆弱となっている地区については、住民の参画を図りながら、歴史性やまちなみなど地域の実情に応じた整備手法を調査研究し、整備を進めることとします。	また、木造建築物が密集する地区など、災害に対して脆弱な地区については、住民の参画を図りながら、歴史性やまちなみ景観の保全など、地域の実情を踏まえた対応策を検討します。	【問題点・課題】 ・住民の合意形成等事業化に向けたハードルは高いが、地元の機運等の高まりを見ながら優先順位を検討し、引き続き取り組む必要がある 【見直しの考え方】 ・地区の実情や実現可能性を見据えた表現に修正	3 安全で安心して暮らせるまちづくり 4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
30	その他、定住・半定住者の受け入れとして、NPOなどと連携しながら空き家の活用等を検討します。	そのほか、移住・定住の促進に向け、市外の人へ向けた黒部の魅力発信や、移住相談、市内企業と市内外の複業人材とのマッチング、黒部で活躍する「人」と出会える場づくりなど、様々な「つなぎの場」である「移住・人つなぎ支援センター」の活用を促進するとともに、「黒部市空家・空地情報バンク」の利用促進やNPOなどと連携した空き家の活用を推進します。	【問題点・課題】 ・空き家の活用等の検討が必要 ・定住・半定住の表現の見直しが必要 【見直しの考え方】 ・移住・定住の促進に向けた内容の充足	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり 3 安全で安心して暮らせるまちづくり

※1 コンパクト・プラス・ネットワーク：人口減少や高齢化が進む中、地方都市においては、地域の活力を維持するとともに、医療・福祉・商業等の生活機能を確保し、高齢者が安心して暮らせるよう、地域公共交通と連携して、コンパクトなまちづくりを進めるという考え方。

※2 第一種住居地域：都市計画で定められた用途地域の一つで、住居の環境を守るための地域。3,000㎡までの店舗、事務所、ホテルなどが建てられる

※3 第二種住居地域：都市計画で定められた用途地域の一つで、主に住居の環境を守るための地域。上記のほか、カラオケボックスなどが建てられる。

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-2 土地利用の方針 (3) 農業地域			
31	黒部川扇状地に広がる散居村や集村集落などを含む農村部に加え、十二貫野台地や布施川上流部など農業生産が行われている中山間地については、農業の振興を図る地域として、関係機関との連携の強化や景観法等の活用を図りながら無秩序な開発の抑制に努めるとともに、農業基盤の整備により農業生産の進展を図るほか、休耕農地等の活用を促進します。	黒部川扇状地に広がる 農地や集落などの 農村部に加え、十二貫野台地や布施川上流部など農業生産が行われている中山間地については、農業の振興を図る地域として、関係機関との連携の強化や景観法等を活用しながら、無秩序な開発の抑制 などによる農地の保全を図ります。 また、農業基盤の整備をはじめ、休耕農地等の活用促進のほか、担い手育成や生産組織の強化、鳥獣対策などによる安定的で持続的な農業生産環境の維持・向上を図ります。	【問題点・課題】 ・集落、担い手の高齢化等の問題に対応しながら、農業生産活動や農地管理の維持継続等が必要 【見直しの考え方】 ・産業の維持や適正な土地利用に向けた内容の充足	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
	5-2 土地利用の方針 (4) 森林地域			
32	黒部川中上流域から布施川上流域にかけて広がる 3,000m級の山岳とそれに連なる里山については、豊かな自然環境や生態系の維持・保全に努めます。	黒部川中上流域から布施川上流域にかけて広がる 3,000m級の山岳とそれに連なる里山については、 森林及び里山の整備や治山事業などを推進し、豊かで親しみやすい 自然環境や生態系の維持・保全に努めます。	【問題点・課題】 ・地域住民の高齢化等の問題に対応しながら、鳥獣被害の防止や里山林の維持管理の継続等が必要 【見直しの考え方】 ・里山の保全や適正な土地利用に向けた内容の充足	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
	5-2 土地利用の方針 (5) 運用について			
33	実際の運用にあっては、一部を除き大枠の用途地域規模は現状維持することを基本に、用途地域内にあっては「地区計画」や「特別用途地区」の導入、用途地域外にあっては「地区計画」や「特定用途制限地域」の導入を検討していきます。	実際の運用については、一部を除き、 骨格となる用途地域の規模は現状維持を基本とします。	【問題点・課題】 ・導入の可否の検討が必要 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、適正な土地利用の誘導に向けた都市計画制度の活用検討	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
34	また、都市計画制度に限らず諸制度の活用も検討し、地域にとって最もふさわしい手法により土地利用の規制・誘導を行っていきます。	削除	【問題点・課題】 ・活用の可否の検討が必要 【見直しの考え方】 ・事業未定のため、記述の削除	—
	5-3 都市施設整備の方針 (1) 道路 1) 広域幹線道路			
35	関東圏や関西圏など全国をネットワークする北陸自動車道と国道8号バイパスを「広域幹線道路」として位置づけます。 新幹線開業までに国道8号バイパスが開通するよう引き続き整備を促進します。	関東圏や関西圏などを 結ぶ全国レベルの道路ネットワーク である北陸自動車道と国道8号を「広域幹線道路」として位置付けます。 また、速達性や災害に対する強靱性などを特に重視し、国道8号入善黒部バイパスの早期4車線化等により、安全で快適かつ円滑な道路ネットワークの構築を図ります。	【問題点・課題】 ・国道8号入善黒部バイパスの早期4車線化の整備促進等により、安全な道路ネットワークの構築が必要 【見直しの考え方】 ・広域幹線道路の更なる機能強化に向けた内容の充足	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-3 都市施設整備の方針 (1) 道路 2) 主要幹線道路			
36	<p>県内の各拠点をネットワークするとともに本市の骨格となる道路で、国道8号や主要地方道、都市計画道路新駅中新線等を「主要幹線道路」として位置づけます。</p> <p>県東部地域の拠点駅となる新幹線新駅の開業を契機として、地域経済の活性化を図るため都市計画道路新駅中新線等、新幹線新駅へのアクセス道路の整備・強化を図ります。</p>	<p>県内の主要拠点を結ぶ全県レベルの道路ネットワークであり、本市の骨格を形成する道路で、黒部宇奈月縦貫道路((都)新駅中新線、(主)黒部宇奈月線ほか)、(一)魚津入善線、湾岸道路((主)魚津生地入善線ほか)、(主)若栗生地線、東部山麓道路、(主)黒部朝日公園線及び市道山田浦山線を「主要幹線道路」として位置づけます。</p> <p>特に県東部の交通拠点である黒部宇奈月温泉駅の立地を最大限に活かし、地域経済の活性化を図るため、黒部宇奈月縦貫道路の一部区間を担う(都)新駅中新線の4車線供用に向け、関係機関との連携を強化するとともに、海岸部へのアクセスが求められていることから、関係機関と協議をしながら、延伸の必要性や効果を検証します。</p>	<p>【問題点・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒部宇奈月縦貫道路は、(都)新駅中新線の4車線供用に向け、関係機関との連携強化や延伸について検討が必要 湾岸道路は、整備促進に向け、関係機関との連携強化が必要 <p>【見直しの考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 広域幹線道路と主要幹線道路・幹線道路との連携強化(構想路線の実現など)に向けた内容の充足 	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
37	<p>また、国道8号バイパスの開通に伴う交通流動の変化に対応した道路ネットワークを構築するため、必要に応じ都市計画道路網の見直しを行います。</p>	<p>また、国道8号入善黒部バイパスの交通流動の変化を見極めながら、道路の利用状況やその後の維持管理を考慮した上で、真に必要な路線を選択し、整備を推進するとともに、必要に応じて、都市計画道路の見直しを検討します。</p> <p>このほか、海岸部地域を南北に連絡する湾岸道路の整備促進に向け、関係機関と連携を強化します。</p>	<p>【問題点・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路の利用状況やその後の維持管理を考慮した上で、真に必要な路線を選択した計画が必要 <p>【見直しの考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒部市幹線道路網計画との整合性を図るため、内容の充足 	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
	5-3 都市施設整備の方針 (1) 道路 3) 幹線道路			
38	<p>市内の各拠点をネットワークする道路や、放射道路・環状道路など市街地の骨格を形成する道路を「幹線道路」に位置づけます。</p> <p>主要幹線道路の見直しと併せて、鉄道を中心としたまちづくりを進める観点から、主要鉄道駅と市街地を連絡する道路の配置や、長期未着手の都市計画道路等について見直しを検討するとともに、環状線など必要性の高い区間から優先的に整備を進めます。</p>	<p>主要幹線道路の機能を補い、主として市内主要拠点や近隣市町との連絡機能、市街地の骨格形成機能を担う(主)朝日宇奈月線、(主)黒部朝日公園線、(一)石田前沢線、(一)福平石田線、(都)南線、(都)前沢植木線、荻生若栗線などを「幹線道路」に位置づけます。</p> <p>また、道路の利用状況やその後の維持管理を考慮した上で、真に必要な路線を選択し、道路改良や歩行環境の整備等を促進するとともに、必要に応じて、都市計画道路の見直しを検討します。</p>	<p>【問題点・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 道路の利用状況やその後の維持管理を考慮した上で、真に必要な路線を選択した計画が必要 <p>【見直しの考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒部市幹線道路網計画との整合性を図るため、内容の充足 	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
	5-3 都市施設整備の方針 (1) 道路 4) 補助幹線道路			
39	<p>幹線道路を補完する道路として「補助幹線道路」を位置づけます。</p> <p>生活に密着した道路であることから、狭隘部分の拡幅、安全対策の徹底を図るとともに、冬季交通の確保をはじめとした防災対応など、市民と協働しながら維持管理に努めます。</p>	<p>幹線道路を補完し、地区間の連絡機能や地区内の交通処理機能、市街地の街区形成機能を担う道路を「補助幹線道路」に位置づけます。</p> <p>また、生活に密着した道路であることから、狭隘部分の拡幅、冬期も含めた歩行環境の確保などについては、限られた財源の中で迅速かつ柔軟な道路整備を進めます。</p>	<p>【問題点・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 市民からの多岐にわたる要望に対し、限られた予算の中で迅速かつ柔軟に対応していくことが必要 <p>【見直しの考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 黒部市幹線道路網計画との整合性を図るため、内容の充足 	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 3 安全で安心して暮らせるまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-3 都市施設整備の方針 (2) 公共交通 1) 北陸新幹線			
40	新幹線新駅周辺は、来訪者を魅了する観光と交流の拠点づくりを目指し、駐車場や駅前広場等の整備を推進します。	黒部宇奈月温泉駅周辺については、駅利用者の利便性向上を図るため、交通結節機能、観光情報機能などの充実に努めます。 また、大阪延伸を見据えた駅周辺施設や周辺の土地利用の在り方について、必要な検討を行います。	【問題点・課題】 ・開業から8年が経過しており、駅周辺の在り方について、検討していくことが必要 【見直しの考え方】 ・第2次黒部市総合振興計画に基づく、交通拠点としての位置づけ強化	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
41	また、北陸新幹線と富山地方鉄道本線のスムーズな乗り換えのため、新幹線新駅に近接した位置に、富山地方鉄道本線の新駅の整備を進めます。	削除	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・事業完了のため、記述の削除	-
	5-3 都市施設整備の方針 (2) 公共交通 2) JR北陸本線・富山地方鉄道本線	5-3 都市施設整備の方針 (2) 公共交通 2) あいの風とやま鉄道・富山地方鉄道		
42	鉄道は、北陸新幹線開業に伴い並行在来線の経営分離問題が課題となる一方で、近年の社会情勢の変化などにより鉄道の必要性が見直されていることから、鉄道の存続と利用者促進のための利便性向上による施策が求められています。 このため、利便性向上の施策を関係機関等に要請していくとともに、沿線人口を確保しながら鉄道相互や他の交通機関との連絡性向上によるネットワーク化、各駅周辺の施設充実を進めるなど地域をあげて公共交通の利用増進を促し、鉄道網を活かした「コンパクトなまちづくり」を推進します。	あいの風とやま鉄道及び富山地方鉄道は、厳しい経営が続く一方で、近年の社会情勢の変化などにより、鉄道の必要性が見直されていることから、鉄道の存続と利用促進を図るための利便性向上に資する取組が求められています。 このことから、関係機関との連携を強化し、必要な施設整備を進めていく必要があります。 また、鉄道の沿線人口を維持するため、鉄道、路線バス、コミュニティ交通（コミュニティタクシー及びデマンドタクシー）等による鉄道を基軸とした公共交通網の維持、利用促進に向けた取組、まちづくりと連動した交通環境の整備が必要です。	【問題点・課題】 ・減少する沿線人口と増大する収支のバランスを考慮したルートとダイヤの設定が必要 【見直しの考え方】 ・北陸新幹線開業後における、鉄道を軸とした公共交通ネットワークの強化に向けた内容の充足	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
43	特にJR黒部駅において、駅周辺にパーク＆ライド駐車場の整備を検討するとともに、利便性やアクセス性の向上のため、東西自由通路、駅西駐車場整備、国道8号バイパスからの連絡向上などの検討に努めます。	特に黒部駅においては、バリアフリー化を含めた利便性向上を図るため、駅施設や駅西広場、駅西駐車場等の整備を進めるほか、国道8号バイパスからの連絡向上などの検討に努めます。 また、生地駅周辺では、地元振興会などが民間企業と連携し、駅の移設検討を含めたまちづくり構想を進めており、地元や民間企業との役割分担の下、相互に連携を図ります。	【問題点・課題】 ・黒部駅施設等の整備の推進が必要 ・生地駅の移設については、しっかりと議論が必要 【見直しの考え方】 ・黒部駅については、整備方針の変更を踏まえた修正 ・生地駅については、地元や民間企業の動向に合わせ内容の充足	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-3 都市施設整備の方針 (2) 公共交通 3) バス等	5-3 都市施設整備の方針 (2) 公共交通 3) 路線バス・コミュニティ交通等		
44	マイカーの普及とともに、路線バスの利用客は鉄道客以上に大きく減少しています。 このため北陸新幹線や既存の鉄道と連携した公共交通ネットワークの構築やコミュニティ交通の導入などを検討し、鉄道利用が不便な地区における公共交通の充実を進めていきます。	持続可能な路線バス・コミュニティ交通網の構築を目指すため、運行事業者等の関係機関と連携を強化し、利用しやすいルート及びダイヤ設定に努め、利用者数の底上げを図ります。 また、 中心市街地での電動小型カート^{※1}の導入などにより、暮らしの足を充実させ、「出かけやすい・出かけて楽しいまちづくり」を推進します。 さらに、 一般のドライバーが自家用車を使って有償で人を運ぶ「ライドシェア」については、国の動向を注視しながら、導入の可能性について検討します。	【問題点・課題】 ・減少する沿線人口と増大する収支のバランスを考慮したルートとダイヤの設定が必要 【見直しの考え方】 ・北陸新幹線開業後における、鉄道を軸とした公共交通ネットワークの強化に向けた内容の充足	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
45	また、山間地など利用者の少ない地区を通る路線については、利用者の利便性向上と運行の効率化を研究しながら、地域の実情にあった公共交通を検討し、生活の足の確保に努めます。	加えて、山間地など、利用者の少ない地区を運行する路線については、地区自治振興会や運行事業者と連携を図りながら、利用者の利便性向上と運行の効率化を研究し、地域の実情にあったコミュニティ交通の運行に努めます。また、業者と地域住民の連携で生活の移動を支え合う「ノッカル」^{※2}のような自家用有償旅客運送^{※3}の導入を検討します。 このほか、公共交通を補完する移動手段として、「ちょいのり黒部」、「黒部市レンタサイクル事業」、「コミュニティサイクル」などの自転車事業の統合を検討し、住民の日常利用や観光客の利用における利便性・回遊性の向上を図ります。	【問題点・課題】 ・減少する沿線人口と増大する収支のバランスを考慮したルートとダイヤの設定が必要 【見直しの考え方】 ・北陸新幹線開業後における、鉄道を軸とした公共交通ネットワークの強化に向けた内容の充足	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
	5-3 都市施設整備の方針 (3) 公園・緑地等 1) 大規模な公園・緑地			
46	黒部市総合公園、宮野運動公園、中ノ口緑地公園、黒部川公園などの大規模な公園、緑地はスポーツ、レクリエーションの拠点として機能しており、市民だけでなく周辺市町村からの利用も少なくありません。 ゆっくり楽しめるこうした施設は、健康への関心の高まりに伴い、さらに需要が増大すると考えられることから、黒部川の親水空間を活用した公園、自然に囲まれた緑地など黒部市の自然や景観を活用した地域ならではの 特徴ある整備の充実 に努めていきます。	黒部市総合公園、宮野運動公園、中ノ口緑地、黒部川緑地などの大規模な公園・緑地は、スポーツ、レクリエーションの拠点、 憩いの場 として機能しており、市民だけでなく、周辺市町村からの利用者も少なくありません。 ゆっくり と 楽しめるこうした施設は、健康への関心の高まりに伴い、 更に 需要が 高まる と考えられることから、 広大な敷地 を活用した公園、自然に囲まれた緑地など、 本市の自然や景観を活用した魅力ある公園・緑地 の 充実 を図ります。	【問題点・課題】 ・公園施設の老朽化が進んでいるため、優先度や緊急度を適正に見極めながら、安全に利用できる環境維持が必要 ・民間活力の導入による活性化の検討が必要 【見直しの考え方】 ・市民等が安全・安心で快適に利用できる公園・緑地等の機能充実に向けた内容の充足	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
	5-3 都市施設整備の方針 (3) 公園・緑地等 2) 観光地の公園			
47	観光拠点における公園については、市民や来訪者の休憩スペースであるとともに、地域の歴史や文化を発信する拠点でもあります。 地域の資源を有効に活用しながら特徴を持たせ、全体のネットワークの中で位置づけて整備を図っていきます。	観光地における公園については、市民や来訪者の休憩スペースであるとともに、地域の歴史や文化を発信する拠点でもあります。 地域の資源を有効に活用しながら、 各公園の特徴を持たせるとともに、本市の玄関口にあたる黒部宇奈月温泉駅の東西に整備された公園については、駅周辺整備のコンセプトに沿って景観を維持しながら、機能の充実について必要な検討を行います。	【問題点・課題】 ・関係部局との連携を図りながら、新たに整備された公園の位置付けの検討が必要 【見直しの考え方】 ・公園・緑地全体の中において、新たに整備された公園の位置付けの検討	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり

※1 電動小型カート：環境性能に優れ、時速20km未満で公道を走行することができる乗車定員が少人数の車両のこと。

※2 ノッカル（商標登録名）：地域の移動課題を解決するため、スズキ㈱と㈱博報堂が開発した、地域住民で移動を支え合うサービスのこと。

※3 自家用有償旅客運送：バス、タクシー等が運行されない過疎地域などにおいて、住民の日常生活における移動手段を確保するため、登録を受けた市町村、NPO等が自家用車を用いて郵送で運送するサービスのこと。

No	現行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
48	宇奈月温泉街周辺の公園については、湯のまち観光や山岳観光の入口部にふさわしい公園緑地など、利用者ニーズにあった公園・緑地の整備に努めます。	宇奈月温泉街周辺の公園については、湯のまち観光や山岳観光の入口部にふさわしい、利用者ニーズにあった公園の整備に努めます。	【問題点・課題】 ・優先度や緊急度を適正に見極めながら、安全に利用できる環境維持が必要 【見直しの考え方】 ・特になし	—
5-3 都市施設整備の方針 (3) 公園・緑地等 3) 身近な公園・緑地				
49	児童や高齢者等が日々身近に利用できる公園として、利用距離を考慮しながら適切に配置するとともに、地域ごとの特性を踏まえた整備に努めるほか、市民や利用者と協働しながら維持管理及び緑化活動に努めます。また、建物が密集する地区などでは、空き地を活用した小公園等の整備を検討します。	児童や高齢者等が日々身近に利用できる公園・緑地の配置については、人口や誘致距離、地域のニーズ等を考慮するとともに、建物が密集する地区などにおける空き地の活用なども含め、適切な配置を検討します。	【問題点・課題】 ・公園施設の老朽化が進んでいるため、優先度や緊急度を適正に見極めながら、安全に利用できる環境維持が必要 ・新規整備や再編に関する計画はなし 【見直しの考え方】 ・市民等が安全・安心で快適に利用できる公園・緑地等の機能充実に向けた検討 ・身近な公園等の適切な配置に向けた検討	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
50	—	その上で、身近な街区公園の整備を進めるとともに、既存の公園・緑地については、市民や利用者と連携した維持管理及び緑化活動を推進します。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・市民等が安全・安心で快適に利用できる公園・緑地等の機能充実に向けた検討	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
5-3 都市施設整備の方針 (3) 公園・緑地等 4) 墓園				
51	都市計画決定されている墓園として「宮野墓地公園」があります。ここについては、施設の適切な維持管理を基本に、周辺の自然環境に配慮しながら今後の需要への対応に努めていきます。	都市計画決定されている宮野墓地公園については、自然に恵まれた静寂な丘陵地という環境に配慮しながら、施設の適切な維持管理を行うとともに、墓地公園の周知や利用者ニーズの把握に努め、利用促進を図ります。	【問題点・課題】 ・墓石建立以外にも納骨堂や合同墓地等ニーズが多様化 ・跡継ぎがない等の理由で管理が不十分な区画の増加が懸念 【見直しの考え方】 ・事業進捗や実現可能性を見据えた表現に修正	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-3 都市施設整備の方針 (4) 上下水道 1) 上水道	5-3 都市施設整備の方針 (4) 水道・下水道 1) 水道		
52	安全で安心な水の供給の要請が高まるなか、未普及地域の解消や上水道の統合を図りながら普及率の向上に努めます。	未普及地域への配水管の敷設を進めるとともに、水道を使用していない地区簡易水道組合の意向を定期的に把握しながら、計画的に統合を進めていくことで、普及率の向上を図ります。	【問題点・課題】 ・簡易水道組合の統合に対する意向を定期的に聞き取り、計画的な統合整備の推進が必要 【見直しの考え方】 ・水道の普及促進に向けた施策の充足	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
53	また、災害に強い水道を目指して、老朽管路の更新、施設の耐震化、遠方監視施設の導入などを検討し、安定した水の供給に努めます。	また、災害に強い水道を目指して、老朽管の更新や施設の耐震化などにより、水の安定供給に努めます。 水道については、現在老朽化が深刻な生地水源地、石田岡水源地及び村椿水源地の機能を集約した新たな配水場の整備を進めます。また、市内に5つある簡易水道については、老朽化した施設が多いことから、計画的な更新及び安定的な水量の確保に努めます。	【問題点・課題】 ・水道では、老朽化が深刻な水源地について、機能を集約し、新たな配水場整備の事業が必要 ・簡易水道では、施設が点在しており、施設数も水道よりも多いため、計画的に施設の更新が必要 【見直しの考え方】 ・事業進捗を踏まえ、一部記述の削除 ・水道の普及促進と持続可能なライフラインの構築に向けた内容の充足	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
	5-3 都市施設整備の方針 (4) 上下水道 2) 下水道			
54	下水道は地域性を考慮しながら適切な方式を導入し、未普及地域の整備促進に努めます。	下水道は、地域性を考慮しながら適切な工法を導入し、未普及地域の整備促進を図るとともに、計画的かつ効率的な維持管理を図ります。	【問題点・課題】 ・管渠整備の概成に向けた整備路線の選択が必要 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、下水道の未普及地域の整備促進	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
55	整備済みの地域にあつては、未加入世帯への啓発、健全な事業経営に努めるとともに、汚泥処理能力の強化、汚泥の減量化、リサイクル促進などの調査研究を進めていきます。	整備済みの地域については、未加入世帯への啓発等により、健全な事業経営を図りつつ、老朽化により機能低下した設備更新に努めます。 また、処理場の統廃合や下水道への接続の増加など、浄化センターへの流入量の増加状況を踏まえ、施設機能の増強等による汚泥処理能力の強化や、資源循環の促進に資する調査研究を進めます。	【問題点・課題】 ・処理場の統廃合や下水道への接続の増加など、浄化センターへの流入量の増加状況を踏まえ、施設の機械・電気設備工事の増強等による汚泥処理能力の強化が必要 ・汚泥の減量化は計画に不適合 【見直しの考え方】 ・下水道における持続可能なライフラインの構築に向けた内容の充足	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
56	特に汚泥の利活用については「黒部市バイオマスタウン構想」に基づき、積極的に推進していきます。なお、実現に向けた取り組みにあたっては、市民、事業者、行政の連携により協働しながら進めます。	特に汚泥の利活用については、PFI手法による「黒部市下水道バイオマスイエネジー利活用施設整備運営事業」を継続して進めるとともに、既存施設の設備更新、更なる付加価値の検討などを積極的に推進します。	【問題点・課題】 ・ 現有施設の設備更新のほか、さらなる付加価値の検討が必要 【見直しの考え方】 ・ 下水道における持続可能なライフラインの構築に向けた内容の充足	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
5-3 都市施設整備の方針 (5) 駐車場				
57	現在、自動車駐車場として都市計画決定されている「宇奈月駐車場」は、宇奈月温泉や黒部峡谷への観光客のための自動車駐車場として、今後の動向をみながら、整備に努めていきます。	都市計画決定されている「宇奈月駐車場」は、宇奈月温泉や黒部峡谷への観光客のための自動車駐車場であり、今後の観光動向を注視しながら、必要に応じて整備を検討します。	【問題点・課題】 ・ 今後の観光動向を注視しながら、必要に応じて、整備を検討 【見直しの考え方】 ・ 事業進捗や実現可能性を見据えた内容の検討	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
58	その他の自動車駐車場については、公共交通利用促進のためのパーク＆ライド駐車場、中心市街地活性化のための駐車場、観光客など交流人口増加を促す駐車場などについて、需要を考慮しながら整備を進めます。	そのほか、公共交通利用促進のためのパーク＆ライド駐車場や、観光客などの利用を想定した駐車場については、需要を考慮しながら、必要に応じて整備を検討します。	【問題点・課題】 ・ 需要を考慮しながら、必要に応じて、整備を検討 【見直しの考え方】 ・ 事業進捗や実現可能性を見据えた内容の検討	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
59	自転車駐車場は、公共交通利用促進のため、駅周辺に設置または既存施設の増改築について、今後の需要を考慮して整備に努めます。	自転車駐車場は、公共交通の利用を促進するための機能を有していることから、駅周辺での設置や既存施設の増改築について検討するとともに、増加する放置自転車に対しては、引き続き対策を講じます。 また、無料公共自転車「ちょいのり黒部」については、利用状況や今後の需要を考慮しながら、新たなステーション（駐車場）の整備を検討します。	【問題点・課題】 ・ 放置自転車の増加が問題 【見直しの考え方】 ・ 公共交通との連携強化や課題に対応した内容の充足	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり
5-3 都市施設整備の方針 (6) ごみ焼却場				
60	ごみ処理については、廃棄物の発生抑制・再使用・再生利用（3R）を啓発し、ごみの減量化に努めることを基本とし、新川広域圏事務組合ごみ処理施設により適正処理を推進します。 また将来需要も踏まえて、適切な規模を想定し、必要に応じて都市計画決定を行います。	ごみ処理については、廃棄物の発生抑制（リデュース）・再使用（リユース）・再生利用（リサイクル）の3Rに加え、「リフューズ（断る、もらわない）」、「リペア（修理）」、「リターン（戻す）」のRを啓発し、ごみの減量化に努めることを基本とし、新川広域圏事務組合ごみ処理施設による適正な処理を推進します。 また、将来需要も踏まえて、適切な規模を想定し、必要に応じて、都市計画決定を行います。	【問題点・課題】 ・ 必要に応じて、都市計画決定について検討 【見直しの考え方】 ・ 今後も継続し、新川広域圏事務組合ごみ処理施設による適正処理の推進と、必要に応じた都市計画決定の検討	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-4 都市景観形成の方針 (1) 山岳景観の保全			
61	北アルプス連峰の3,000m級の山岳は本市のバックグラウンドとなっているため、山岳及びそれに連なる里山を自然景観として一体的に捉え、開発圧力が高まると予想される新幹線新駅などにおいて良好な景観の維持・保全に努めます。	北アルプスの3,000m級の山岳は、本市のバックグラウンドとなっているため、山岳及びそれに連なる里山を自然景観として一体的に捉え、黒部宇奈月温泉駅などにおいて、良好な山並みなどの眺望や景観の維持・保全に努めます。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、山岳景観の保全に向けた黒部宇奈月温泉駅周辺などにおける良好な景観の維持・保全	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
	5-4 都市景観形成の方針 (2) 黒部川扇状地と田園景観の保全			
62	黒部川がつくった雄大な扇状地に広がる田園景観・散居景観は、本市の特徴となっていることから、景観法等の活用を含めて無秩序な宅地化等を防止するとともに、屋外広告物の規制等を図るなど良好な景観の維持・保全に努めます。	黒部川がつくった雄大な扇状地に広がる田園景観は、本市の特徴となっていることから、景観法等の活用や、富山県景観条例、富山県屋外広告物条例等の周知を含めて、無秩序な宅地化等を防止するとともに、北陸新幹線沿線や北陸自動車道沿道の屋外広告物の規制等を図るなど、良好な田園景観の維持・保全に努めます。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、雄大な扇状地に広がる田園景観・散居景観の維持・保全	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
63	また、自然や田園景観の変化を楽しむことのできる眺望ポイントを選定し、アクセス道や関連施設の整備を行います。	また、自然や田園景観の変化を楽しむことのできる眺望ポイントを選定し、アクセス道や関連施設の整備を行います。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、自然や田園景観の変化を楽しむことのできる環境の整備	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
	5-4 都市景観形成の方針 (3) 水辺景観の保全			
64	黒部川をはじめとする諸河川は、市民の身近なうらおいある景観となっていることから、公園・緑地としての活用、美化への取り組みなどにより良好な河川景観の向上に努めます。	黒部川をはじめとする河川は、市民の身近なうらおいある景観となっていることから、美化への取組をはじめ、河川沿いの公園・緑地については、優先度や緊急度を的確に見極めながら、安全に利用できる水と親しむ空間としての活用などにより、良好な河川景観の向上に努めます。	【問題点・課題】 ・優先度や緊急度を適正に見極めながら安全に利用できる環境維持が必要 【見直しの考え方】 ・良好な河川景観の保全に向けた内容の充足	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
65	海岸は、海岸防風林の維持・保全、砂浜などの浸食防止、ビューポイントの整備、海岸の美化活動を市民と協働しながら進め、良好な海岸景観の整備に努めます。	海岸は、海岸防風林の維持・保全、砂浜などの浸食防止、河川流域との一体的・総合的な保全及び管理、ビューポイントの整備、海岸の美化活動を市民と協働しながら進め、良好な海岸景観の整備に努めます。	【問題点・課題】 ・下流域の河床低下や海岸浸食など、治水・利水・自然環境への影響バランスを考慮した流域一帯の総合的土砂管理の中で、少しでも土砂が自然流下に近い状態を増やす取組が必要 【見直しの考え方】 ・良好な海岸景観の保全に向けた内容の充足	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	<p>5-4 都市景観形成の方針 (4) 幹線道路沿線等における景観の保全・創出</p>			
66	<p>来訪者などが集中する駅や黒部IC、幹線道路の沿線については、良好な景観の保全・形成する重要な地区として、建物デザインや屋外広告物等の規制・誘導を図ります。</p>	<p>来訪者などが集中する黒部宇奈月温泉駅や黒部IC、幹線道路の沿線については、良好な景観を保全・形成する重要な地区として、富山県景観条例、富山県屋外広告物条例等の周知に努め、建物デザインや屋外広告物等の規制・誘導を図ります。</p>	<p>【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、駅や黒部IC、幹線道路沿線における景観規制・誘導</p>	<p>4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり</p>
67	<p>特に新幹線新駅周辺については、本市の新たな玄関口として、「北陸新幹線新駅周辺整備計画」で掲げる「見えない駅・魅せる駅」をコンセプトとしながら、景観向上に努めます。</p>	<p>特に黒部宇奈月温泉駅周辺については、本市の玄関口として、「北陸新幹線新駅周辺整備計画」で掲げる「見えない駅・魅せる駅」をコンセプトとしながら、富山県景観条例等に基づき、眺望や景観の保全に努めます。</p>	<p>【問題点・課題】 ・景観保全については、現行法令で対応 【見直しの考え方】 ・現行法令に基づきながら、黒部宇奈月温泉駅周辺の良好な景観形成に向けた内容の充足</p>	<p>1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり</p>
	<p>5-4 都市景観形成の方針 (5) 街並み景観の保全・創出</p>			
68	<p>歴史的に形成されてきた既成市街地には、宿場町として栄えた旧街道筋の街並みや独特の風情を残す漁村集落、緑豊かな自然に囲まれた温泉街など各々が特徴的な景観を醸し出しています。 こうした個性的な景観を保全・向上していくため、住民との協働を基本としながら各種政策等の活用を検討するとともに、地域の実情に応じて伝統的家屋の維持・改修や電線類の地中化、屋外広告物の規制、沿道緑化等を推進します。</p>	<p>歴史的に形成されてきた既成市街地には、宿場町として栄えた旧街道筋の街並みや独特の風情を残す漁村集落、緑豊かな自然に囲まれた温泉街など、各々が特徴的な景観を醸し出しています。 こうした個性的な景観を保全・向上していくため、住民との協働を基本としながら、景観法等に基づく制度の活用を検討するとともに、地域の実情に応じた伝統的家屋の維持・改修や電線類の地中化、屋外広告物の規制、沿道緑化等を推進します。</p>	<p>【問題点・課題】 ・電線等の地中化については、電線管理者の同意や多額の費用が必要なことから、整備が進まないのが現状 ・景観保全に対する住民の醸成がなされていないため、保全・向上意識が低い ・景観保全については、現行法令で対応 ・景観向上については、今後検討が必要 【見直しの考え方】 ・現行法令に基づきながら、街並みや沿道の良好な景観形成に向けた内容の充足、事業進捗や実現可能性を見据えた内容の検討</p>	<p>4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり</p>

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	<p>5-4 都市景観形成の方針 (6) 公共空間の修景・改善</p>			
69	<p>交通結節点とその周辺や観光客の多い地区などにおいて、公共空間に設置される標識・サイン・ストリートファニチャー（街具）・建物外観などの修景や、景観の改善または向上に努めるとともに、電線類の地中化について、住民の意向や事業の必要性等を考慮しながら検討していきます。</p>	<p>交通結節点とその周辺や観光客の多い地区などにおいては、関係者と連携しながら、公共空間に標識・サイン、ストリートファニチャー（街路設備）、緑化等を整備し、景観の保全・向上を図るとともに、対象となる地区住民の理解を得ながら、建物外観について景観の配慮を促します。</p>	<p>【問題点・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・標識・サイン、ストリートファニチャー（街路設備）、緑化については、デザインや整備位置等について今後検討が必要 ・景観保全については、現行法令で対応 ・景観向上については、今後検討が必要 <p>【見直しの考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現行法令に基づきながら、街並みや沿道の良好な景観形成に向けた内容の充足、事業進捗や実現可能性を見据えた内容の検討 	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
	<p>5-4 都市景観形成の方針</p>			
70	<p>景観向上にあつては、上記の項目により進めますが、来訪者が多く訪れる交通結節点や幹線道路沿い、各拠点に位置づけされる地域などについては、来訪者を魅了する特に重要なエリアと捉え、景観向上を推進します。</p> <p>景観向上を推進する重点エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域幹線道路沿い（外とのつながり、市内のつながり） ・黒部ICや駅周辺 ・海浜レクリエーション拠点（海岸部） ・交流拠点（新幹線新駅周辺） ・観光・文化拠点（宇奈月温泉） 	<p>景観の保全・向上については、上記の項目により進めます。 また、来訪者が多く訪れる交通結節点、幹線道路沿い、各拠点に位置付けされる地域などについては、来訪者を魅了する特に重要なエリアと捉え、対象となる地区住民の理解を得ながら、景観の保全・向上を推進します。</p> <p>景観の保全・向上を推進する重点エリア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広域及び地域交流連携軸となる道路沿い（外とのつながり、市内のつながり） ・黒部ICや駅周辺 ・交通拠点（新幹線駅周辺） ・観光交流拠点（海岸部・宇奈月温泉） 	<p>【問題点・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地元関係者と協議、調整が必要 ・整備に当たっては、道路の利用状況やその後の維持管理を考慮した上で、真に必要な整備区間を選択し、周辺地区の住民の理解を得られる計画が必要 ・景観保全については、現行法令で対応 ・景観向上については、今後検討が必要 <p>【見直しの考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業進捗や実現可能性を見据えた「景観向上を推進する重点エリア」の位置付けの検討 	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
	<p>5-5 都市環境形成の方針 (1) 自然環境の保全 1) 自然等の保全と活用 ①山岳</p>			
71	<p>本市のバックグラウンドとなっている北アルプス連峰については、黒部峡谷の世界文化遺産登録に向けて、市民や各種団体と協働しながら豊かな自然環境の保全に努めるとともに、生態系の維持に努めます。</p>	<p>本市のバックグラウンドとなっている北アルプスについては、市民や関係団体等と協働しながら、日本ジオパークに認定された「立山黒部ジオパーク」における取組を継続し、豊かな自然環境を保全するとともに、多様な生態系の維持に努めます。</p>	<p>【問題点・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・黒部峡谷の世界遺産登録への具体的な動きなし ・世界文化遺産は削除し、立山黒部ジオパークを記載 <p>【見直しの考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会情勢の変化に対応しながら、豊かな自然環境の保全に向けた内容の充足 	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり

No	現行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-5 都市環境形成の方針 (1) 自然環境の保全 1) 自然等の保全と活用 ②里山			
72	市民や来訪者にも親しみが深い里山については、住民や団体等と協働しながら、人と野生動物の棲み分け、生活関連施設の保全など里山の再生・整備に努めるとともに、環境教育やレクリエーションの場としての活用に努め、市民や地域ニーズに対応します。	市民や来訪者にも親しみが深い里山については、 地域住民や関係団体等と協働しながら、人と野生動物との棲み分けによる生態系の維持を図ります。 また、 里山林の継続的な維持管理 や生活関連施設の保全などに努めるとともに、レクリエーションの場としての活用 を図ります。	【問題点・課題】 ・地域住民の高齢化等による侵入防止柵や里山林の維持管理の継続等が必要 【見直しの考え方】 ・里山の保全に向けた内容の充足	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
	5-5 都市環境形成の方針 (1) 自然環境の保全 1) 自然等の保全と活用 ③水辺			
73	黒部川をはじめとする諸河川については、生態系や周辺の環境に配慮しながら、親水公園・緑地等の整備と活用に努めます。	黒部川をはじめとする諸河川については、 多様な生態系や周辺の環境に配慮しながら、良好な河川環境の保全に努めます。 また、 親水公園・緑地については、老朽化した施設の計画的な改修等を行い、安全で安心して利用できる公園づくりを推進します。	【問題点・課題】 ・優先度や緊急度を適正に見極めながら、安全に利用できる環境維持が必要 【見直しの考え方】 ・良好な河川環境の保全に向けた内容の充足	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
	5-5 都市環境形成の方針 (1) 自然環境の保全 2) 黒部の水の保全と活用 ①流水			
74	市民や来訪者にうるおいとやすらぎを与える黒部川などの河川については、水質汚濁防止に向けた調査や工場排水等の監視体制の強化に努め、清らかな水環境の保全に努めます。	市民や来訪者にうるおいとやすらぎを与える黒部川などの河川については、水質汚濁防止に向けた調査や工場排水等の監視体制の強化に努めるとともに、 健全な水循環の保全に資する学習・啓発普及等を積極的に展開するなど、清らかな水環境の保全に努めます。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、河川における清らかな水環境の保全	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
75	併せて、農業用水などを活用した小水力発電等の調査・研究に努め、積極的な導入を図ります。	あわせて、農業用水などを活用した小水力発電等の調査・研究に努め、持続可能性を見極めながら、導入の実施を図ります。	【問題点・課題】 ・採算ベースを考慮した、水力発電の導入が必要 【見直しの考え方】 ・黒部の水の更なる活用に向けた内容の充足	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
	5-5 都市環境形成の方針 (1) 自然環境の保全 2) 黒部の水の保全と活用 ②地下水・湧水			
76	生地や村椿など扇状地の先端部で湧き出す地下水は、本市の特徴の一つとして地域住民の生活を支えているとともに、貴重な観光資源ともなっています。 しかし、最近、地下水位の低下や湧水量の減少も懸念されています。このため、水資源保全に対する市民意識の高揚を図るなど、全市的に地下水の涵養・保全に努めるとともに、水を活かしたまちづくりを推進していきます。	生地や村椿など、扇状地の先端部で湧き出す地下水は、本市の特徴の一つとして地域住民の生活を支えているとともに、貴重な観光資源となっています。 一方、近年では、地下水位の低下や湧水量の減少も懸念されているため、長期的なモニタリング調査の実施、水資源の保全に対する市民意識の啓発を図るなど、地下水のかん養・保全に努めながら、水を活かしたまちづくりを推進します。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、水を活かしたまちづくりの推進	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-5 都市環境形成の方針 (2) 安全・安心な地域の創出 1) 防災			
77	防災については、「黒部市地域防災計画」に基づき着実な遂行に努め、効果的な実施を図ることを基本に防災事業を推進します。	防災については、「黒部市地域防災計画」及び「黒部市国土強靱化地域計画」に基づき、近年、頻発・激甚化する自然災害に備えた防災・減災対策の着実な遂行に努め、防災・減災活動の効果的な実施を図ることを基本に、防災事業を推進します。	【問題点・課題】 ・実情に即し、住民目線に立ち誰が見てもわかりやすい計画への改善が必要 【見直しの考え方】 ・「黒部市地域防災計画」との整合性を図るため、内容の充足	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
78	なお、黒部川については、上流域から下流域まで一貫した総合的な土砂管理を推進していきます。	なお、黒部川については、治水・利水、自然環境への影響バランスを考慮し、上流域から下流域までの流域一帯における総合的な土砂管理の推進に努めます。	【問題点・課題】 ・黒部川上流域における土砂流出抑制とダム及び河川内の堆積土砂対策等が必要 ・下流域の河床低下や海岸浸食など治水・利水・自然環境への影響バランスを考慮した流域一帯の総合的な土砂管理の中で、少しでも土砂が自然流下に近い状態を増やす取組が必要 【見直しの考え方】 ・安全・安心な地域づくりに向けた対策の強化	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
	5-5 都市環境形成の方針 (2) 安全・安心な地域の創出 1) 防災 ①高波・高潮等			
79	海岸部においては、季節風による家屋や田畑の被害を防止するため、海岸防風林の維持・保全に努めるとともに、防波堤等の修繕、防災避難施設や避難路の整備など高波や津波、高潮などの災害対策に努めます。	海岸部においては、季節風による住宅や農地の被害を防止するため、国や県と連携しながら、海岸防風林の維持・保全に努めるとともに、防波堤等の修繕、防災避難施設や避難路の整備などにより、高波、高潮、津波などの災害対策、海岸保全対策に努めます。	【問題点・課題】 ・下新川海岸は、国直轄の海岸保全事業を実施しており、継続的に浸食・高波対策などの海岸保全の推進が必要 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、海岸部における海岸防風林の維持・保全や災害対策の実施	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
80	特に堤防背後に民家等が接近している地域では、副堤の整備や越水の排水路、管理用通路の拡幅を図るほか、水防活動の充実を図ります。	特に堤防背後に建築物等が近接している地域では、副堤の整備や越水の排水路、管理用通路の拡幅を図るほか、水防活動の充実を図ります。 また、「黒部市津波ハザードマップ」の周知に努め、市民の防災・減災意識の啓発を図ります。	【問題点・課題】 ・下新川海岸は、国直轄の海岸保全事業を実施しており、継続的に浸食・高波対策などの海岸保全の推進が必要 ・今後も必要に応じて、ハザードマップの修正及び周知が必要 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、堤防背後に民家等が接近している地域での水防活動の充実	3 安全で安心して暮らせるまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-5 都市環境形成の方針 (2) 安全・安心な地域の創出 1) 防災 ②火災・地震等			
81	木造家屋が密集する市街地は、道路整備による延焼遮断帯の確保や建物の不燃化及び耐震化を進めるなど、災害に強い都市構造の整備に努めるとともに、地震防災マップの作成と住民への周知に努め、防災意識の向上を促します。	木造 建築物 が密集する市街地は、道路整備による延焼遮断帯の確保のほか、 地域の実情を踏まえた対応策を検討するとともに、火災や地震などに対する市民の防災・減災意識の啓発を図ります。	【問題点・課題】 ・市内では国の「地震時等に著しく危険な密集市街地」の指定はなく、市で実施する必要性は低い 【見直しの考え方】 ・事業進捗や実現可能性を見据えた内容の検討	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
82	防災対策と併せて安全な避難路を確保するとともに、公共施設の耐震化などにより地域防災の拠点化を図ります。	また、防災・減災対策と併せて、安全な避難路を確保するとともに、今後も、公共施設の耐震化などによる地域防災の拠点化を継続します。	【問題点・課題】 ・引き続き、公共施設の耐震化を進めながら、地域防災の拠点化が必要 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、安全な避難路の確保、公共施設の耐震化による地域防災の拠点化	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
	5-5 都市環境形成の方針 (2) 安全・安心な地域の創出 1) 防災 ③洪水・浸水等			
83	黒部川をはじめとする諸河川は、護岸改修や砂防えん堤など治水のための事業を実施するとともに、ハザードマップ等の活用により、防災意識の高揚や非常時の避難体制について周知を図っていきます。	黒部川をはじめとする河川は、 関係機関との連携により、護岸改修や砂防えん堤などの治水事業を実施するとともに、「黒部市洪水ハザードマップ」の周知に努め、市民の防災・減災意識の啓発や災害時における避難体制の構築を図ります。	【問題点・課題】 ・今後も必要に応じて、ハザードマップの修正及び周知が必要 ・河川保全のため、継続的に堆積土砂除去の実施が必要 ・災害に備えて、地元の防災意識の向上と訓練の実施が必要 【見直しの考え方】 ・安全・安心な地域づくりに向けた対策の強化	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
84	また、近年において気候変動によって発生が増加が懸念される集中豪雨の対策として、河川改修及び用排水路の整備に努めるとともに、特に周辺と比べて排水機能が低い住宅地や市街地について、調整池の設置、都市下水路や雨水排水路など総合的な対策に努めます。	また、近年の気候変動に伴う集中豪雨の対策としては、 整備効果を見極めながら、河川改修及び用排水路の整備に努めるとともに、特に周辺と比べて排水機能が低い住宅地や市街地については、調整池の設置、都市下水路や雨水排水路などの総合的な対策を検討します。 このほか、水災害に強い都市づくりの実現に向け、黒部川等の流域における保水や貯留機能の確保、「黒部市立地適正化計画」の防災指針に基づく取組を推進します。	【問題点・課題】 ・近年増加する集中豪雨に対し、生活用排水路の能力では対応できないケースが増加しているが、対策には多額の費用が必要 【見直しの考え方】 ・黒部市立地適正化計画の防災指針及び事業進捗や実現可能性を見据えた表現に修正	3 安全で安心して暮らせるまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-5 都市環境形成の方針 (2) 安全・安心な地域の創出 1) 防災 ④雪対策			
85	積雪時においても安全で安心かつ快適な生活空間を確保するため、機械除雪や消雪装置の設置により交通機能の確保に努めます。	積雪時において、安全・安心で快適な生活空間を確保するため、除雪機械や消雪施設等の適切な維持・更新のほか、除雪作業に関わる人材の確保・育成を行いながら、機械除雪や消雪施設の設置による冬期の交通機能の確保に努めます。	【問題点・課題】 ・機械除雪については、除雪機械を運転するオペレーターの高齢化や後継者不足、市の貸与している機械の老朽化への対応が必要 【見直しの考え方】 ・雪対策の強化に向けた内容の充足	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
86	また、建物の建替時における耐雪化、雪捨て場の確保、地域ぐるみの除排雪など総合的な積雪対策を実施していきます。	また、建物の建替時における耐雪化を促していくとともに、豪雪時にも耐え得る雪捨て場の確保、地域ぐるみの除排雪を推進する除雪機械の更新など、総合的な雪対策を実施します。	【問題点・課題】 ・雪捨て場については、豪雪時には、不足も懸念されることから、新しい場所の確保が必要 ・地域ぐるみ除排雪機械については、計画的な更新・増強が必要 【見直しの考え方】 ・雪対策の強化に向けた内容の充足	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
	5-5 都市環境形成の方針 (2) 安全・安心な地域の創出 1) 防災 ⑤土砂崩れ・土石流等			
87	山間部にあつては、総合的な土砂管理を基本とし、地すべり、土石流、土砂流出などの災害に備えます。防災対策にあつては、自然環境の維持・保全を念頭に、特に集落に近い地区を優先的に治山事業を推進するとともに、土砂災害危険区域等の指定を通して、市民の警戒意識の啓発に努めます。	山間部においては、総合的な土砂管理を基本とし、がけ崩れ、地すべり、土石流などの災害に備えます。 また、自然環境への影響バランスを考慮しながら、防災・減災対策を行い、特に集落に近い地区について優先的に治山事業を推進します。 さらに、土砂災害警戒区域等の指定やそれら指定区域での開発を抑制するとともに、「土砂災害ハザードマップ」の周知に努め、市民の防災・減災意識の啓発を図ります。	【問題点・課題】 ・治水・利水・自然環境への影響バランスを考慮した流域一帯の総合的な土砂管理の推進が必要 【見直しの考え方】 ・安全・安心な地域づくりに向けた対策の強化	3 安全で安心して暮らせるまちづくり 4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
	5-5 都市環境形成の方針 (2) 安全・安心な地域の創出 2) 防犯			
88	地域コミュニティの変容に伴って、犯罪の未然防止の必要性が高まっています。このため、防犯灯の設置や地域コミュニティを主体とした防犯パトロールの実施を推進します。	地域コミュニティの変容に伴い、犯罪の未然防止の必要性が高まっていることから、防犯灯の設置や地域コミュニティを主体とした防犯パトロールの実施を継続していくとともに、危険箇所を把握・抽出し、先制的な防犯体制の構築を図ります。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、防犯灯の設置や防犯パトロールの実施	3 安全で安心して暮らせるまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-5 都市環境形成の方針 (2) 安全・安心な地域の創出 3) バリアフリー化の推進			
89	高齢者や障がい者をはじめすべての人びとが、ともに社会を構成し、安心・快適に過ごし、社会のあらゆる分野の活動に参加できる環境を創出するため、住民や観光客などが多く集まる公共施設や道路・公共交通等の移動空間等をはじめとして積極的なバリアフリー化を推進します。	高齢者や障がい者をはじめ、誰もが安全・安心で快適に暮らし、社会のあらゆる分野の活動に参加できる環境を創出するため、市民や観光客などが多く集まる公共施設やそのアクセス道路の歩道、鉄道駅、主要なバス停及びその周辺において、積極的なバリアフリー化を推進します。	【問題点・課題】 ・マウンドアップ方式による歩道のバリアフリー化には、沿線の既存住宅等との高さ調整が必要であり、建物連坦区間においては調整が困難 ・沿線地域の高齢化が進むにつれ、求められるバリアフリーの要望が多様化 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、積極的なバリアフリー化の推進	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 3 安全で安心して暮らせるまちづくり
90	併せて、市民が様々な違いを超えて互いに助け合い連携していく心のバリアフリー化も進め、誰もがやさしくなれるまちづくりを目指します。	あわせて、市民が様々な違いを超えて互いに助け合い、連携していく心のバリアフリー化も進め、誰もがやさしくなれるまちづくりを目指します。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・特になし	—
	5-5 都市環境形成の方針 (2) 安全・安心な地域の創出 4) 社会基盤の長寿命化			
91	既存施設の有効活用を図るため、適切な補修や補強の実施による長寿命化や安全性を確保するとともに、維持費用の低減・平準化に努めます。	「黒部市公共施設等総合管理計画」に基づいた個別施設ごとの長寿命化計画等に沿って、既存の公共施設の有効活用、適切な補修・修繕・改修の実施による長寿命化や安全性を確保するとともに、本市の魅力的でコンパクトなまちづくりを考慮し、公共施設の複合化・多機能化による機能集約を進め、延床面積縮減等による維持費用の低減・平準化に努めます。	【問題点・課題】 ・区域、場所や機能など、内容充実の検討が必要 【見直しの考え方】 ・社会基盤の長寿命化に向けた内容の充足	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり 3 安全で安心して暮らせるまちづくり
92	また、老朽化が進む道路や橋梁などの社会基盤については、施設の社会的需要や老朽度の判定、改修時の費用対効果等を総合的に勘案した上で、解体、用途変更、改修、改築など適切な対応に努めます。	また、老朽化が進む道路や橋梁などの社会基盤については、計画的な維持管理・更新を推進するため、施設の社会的需要や老朽度の判定、改修時の費用対効果等を総合的に勘案した上で、補修、修繕、改修、解体など、適切な対応に努めます。	【問題点・課題】 ・計画的な維持管理・更新を推進し、市民の安全・安心の確保や維持管理等に係るトータルコストの縮減・平準化等が必要 【見直しの考え方】 ・社会基盤の長寿命化に向けた内容の充足	3 安全で安心して暮らせるまちづくり
	5-6 その他関連施策の整備の方針 (1) 環境問題への対応			
93	地球温暖化を防ぐことは、世界が直面する課題となっています。このため、大量消費・大量廃棄の生活スタイルを転換し、ゴミの減量化・リサイクル化を進めるとともに、自然エネルギーやバイオマスの活用を進め、循環型で持続可能な地域づくりを目指します。	地球温暖化を防止し、自然環境の保全と良好な都市環境を形成するため、大量消費・大量廃棄の生活スタイルを転換し、ゴミの発生抑制・再使用・再生利用（3R）に加え、「リフューズ（断る、もらわない）」、「リペア（修理）」、「リターン（戻す）」のRを推進します。 また、自然エネルギーや持続的・安定的なバイオマスエネルギーの利活用を進め、脱炭素社会や持続可能な循環型社会の構築を目指します。	【問題点・課題】 ・持続的・安定的なバイオマスエネルギーの推進が必要 【見直しの考え方】 ・都市を取り巻く環境の変化を踏まえた、市民・行政の協働などによるまちづくりに向けた内容の充足	4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-6 その他関連施策の整備の方針 (3) 観光・交流の推進	5-6 その他関連施策の整備の方針 (2) 観光・交流の推進		
94	人口減少時代に突入し、地域の経済・文化的活力を維持していくためには、来訪者を量的にも質的にも高めていくことが重要となります。 このため、「富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏整備計画」に基づき黒部市及び周辺市町と広域連携を図りながら、地域の特性に応じた観光・交流施策等を実施し、交流人口の増加に努めていきます。	少子高齢化や人口減少が進む中で、地域の経済・文化的活力を維持していくためには、定住人口に加えて、交流人口の増大に向けた取組も重要となります。 このため、「黒部市観光振興計画」に基づく施策を推進するとともに、姉妹都市との連携や、にかわ観光圏を構成する3市2町（黒部市・魚津市・滑川市・入善町・朝日町）による広域連携の継続と必要に応じた事業計画の見直しを進めながら、地域の特性に応じた観光・交流施策等を実施し、交流人口の拡大に努めます。	【問題点・課題】 ・富山湾・黒部峡谷・越中にかわ観光圏協議会の設立から10年以上が経過し、観光を取り巻く環境の変化も著しく、事業計画、組織形態を含め見直し、検討が必要 【見直しの考え方】 ・都市を取り巻く環境の変化を踏まえた、市民・行政の協働などによるまちづくりに向けた内容の充足	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
95	特に海外からの来訪者も多い宇奈月温泉では、案内板における外国語表記の追加等を進めるとともに、施設や宿泊プログラムの充実に努めます。	特に国内のみならず、国外からの来訪者も多い宇奈月温泉では、案内板における多言語表記等を進めるとともに、施設や宿泊プログラムの充実、ホームページの多言語化など、外国人にもわかりやすい情報発信に努めます。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、宇奈月温泉での案内板の外国語表記の追加等、施設や宿泊プログラムの充実	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
96	まち歩きなどにより来訪者の増加が著しい生地地区では、受入施設・体制の充実に努めるとともに、散策コースの充実等に努めます。	まち歩きなどによる来訪者の増加が著しい生地地区では、来訪者が分かりやすくまち歩きなどを楽しむことができるように、受入施設・体制、散策コースの充実等に継続して取り組んでいくとともに、まち歩きガイドの育成などによる受入体制の強化に努めます。	【問題点・課題】 ・まち歩きガイドの増加・育成を図り、将来的にも継続的にガイドを展開できる体制の構築が必要 【見直しの考え方】 ・生地地区での観光・交流の推進に向けた内容の充足	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり
97	農村部や中山間地では、豊かな農村・山村環境を活かして、グリーンツーリズムなど滞在型の交流を促進するほか、歴史・文化的資源が豊富な地域では、歴史・文化めぐりを充実させるなど資源の活用を努めます。	海岸部・農村部・中山間地では、豊かな自然と調和した集落環境の維持・保全を図りながら、これらの環境を活かしたグリーンツーリズムなど、滞在型の交流を促進するほか、歴史・文化めぐりを充実させるなど、地域資源の活用を努めます。	【問題点・課題】 ・集落、担い手の高齢化等による農村環境の維持継続等が必要 【見直しの考え方】 ・農村部や中山間地での観光・交流の推進に向けた内容の充足	2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり 4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり
98	また、受入側のホスピタリティ（もてなしの心）による感動の提供、リピーターの確保が重要であることから、各地域の個性を磨くとともに、地域に対する市民の意識の向上を図り、外国人の来訪も含めて温かく迎える地域を目指します。	また、リピーターとなる来訪者を確保するため、受入側である市民のホスピタリティ（もてなしの心）を醸成するとともに、各地域の個性を磨き、地域に対する住民の愛着と誇りを育てることで意識を高めながら、国内外からの来訪者を温かく迎えることができる地域を目指します。	【問題点・課題】 ・特になし 【見直しの考え方】 ・今後も継続し、外国人来訪者を含めた温かく迎える地域の形成	1 交通ネットワークを活かしたまちづくり 2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり

No	現 行	見直し案	現行計画の検証・評価	「都市の将来目標」との関連
	5-6 その他関連施策の整備の方針 (2) 地域コミュニティの構築	5-6 その他関連施策の整備の方針 (3) コミュニティの維持・強化		
99	<p>少子・高齢化、核家族化、都市化の進展に伴って地縁的な人間関係が薄れ、このことが、独居老人の増加、地域の教育力の低下、行事の維持困難など、新たな社会問題の原因ともなっています。</p> <p>このため、各種ボランティアやNPOなどの市民の活動を促し、成熟社会にふさわしい地域コミュニティの創造に努めていきます。</p>	<p>少子高齢化、人口減少、核家族化や情報端末等を日常生活で活用する超スマート社会など、我々を取り巻く環境や個人の生活スタイルは多様化し、自治振興会や町内会等の担い手不足による人と人との交流や地域との関わり方におけるコミュニティ意識の希薄化が懸念されます。</p> <p>このため、「市民の参画と協働によるまちづくり」、すなわち「みんなで作ろう黒部の未来」の理念の下、みんなが支えあうコミュニティづくりと強化に努めます。</p>	<p>【問題点・課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たな活動団体への支援が必要（採択される団体の固定化の改善） <p>【見直しの考え方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 都市を取り巻く環境の変化を踏まえた、市民・行政の協働などによるまちづくりに向けた内容の充足 	<p>2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり</p> <p>3 安全で安心して暮らせるまちづくり</p>
		5-6 その他関連施策の整備の方針 (4) 移住定住・関係人口の拡大		
100	—	<p>黒部の人々が外部の人と関わり、様々な刺激を受けることで、黒部の良さを再認識するとともに、活発でいきいきと輝く人の増加が見込まれます。</p> <p>黒部に輝く人が増えること、輝く人とのつながりを求める人・引き寄せられる人が増えることで、黒部と外部の人との更なるつながりを生み出します。</p> <p>このため、「住む人が輝き、人が人を呼び込むまち」の理念の下、地域の課題解決に向けた地域内外の人と人とのつながり・結びつきを高めるとともに、移住定住・関係人口の拡大によるにぎわいを創出することで、みんなが住みたくなる活気あるまちづくりを推進します。</p>	(新たな施策として追記)	<p>1 交通ネットワークを活かしたまちづくり</p> <p>2 地域（山・里・川・海）の特性を活かしたまちづくり</p> <p>3 安全で安心して暮らせるまちづくり</p> <p>4 自然と共生し、景観に配慮したまちづくり</p>